

単 行 本					
	書 名	刊行年月	出 版 社	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
1 国文学概論に関する著作					
1	日本文学概説 上・下 (岩波講座「日本文学」)	昭6・7	岩波書店	H1	
2	日本文学研究法 (国語国文学講座)	昭9・7	雄山閣	H1	
3	国文学概論 1	昭11	東京プリント刊行会	H119	A15-8
4	国文学概論 2	昭12	東京プリント刊行会		
5	日本文献学 (岩波講座国語教育)	昭12	岩波書店	(抜刷あり)	
6	国文学通論 一方法と対象一	昭19・7	武蔵野書院	H34	A10-5
7	国文学	昭24・12	広文社	H71	A12-7
8	新訂 国文学通論 一方法と対象一	昭26・8	河出書房	H1	
9	国文学 (東大新書・広文社版の改訂)	昭29・4	東京大学出版会	H70	A12-5, 6
10	国文学への道	昭33・10	桜楓社	H69	
11	国文学 一方法と対象一 (久松潜一著作集第一巻)	昭43・8	至文堂	H1	A1-1
2 日本文学史に関する著作					
12	国文学史総説 (藤村作氏と共著)	大15・3	中興館	H161	B1-1, 2
13	明治文学序説 (藤村作氏と共著)	昭7・10	山海堂出版部	H89	
14	日本文学史論 一小説篇一	昭19・11	至文堂	H162	
15	日本文学史考	昭23・5	玄理社		
16	日本文学名作概観	昭25・12	旺文社	H90	A14-8
17	日本文学史要説	昭25・12	天明社	H72	
18	概説日本文学史 (池田亀鑑氏らと共著)	昭26・5	要書房		
19	原典による日本文学史 (麻生磯次氏らと共監修、編著代表)	昭27・9	河出書房	H163	
20	日本文学史 上	昭27・12	弘文堂	H91、H164	A15-1~3
21	日本文学史 下	昭29・1	弘文堂	H165	B1-3, 4
22	日本文学史通説 (教養全書)	昭28・7	有斐閣	H73	A13-1~4, A14-1~3
23	日本文学史 (武田祐吉・吉田精一氏と共著)	昭32・2	角川書店	H166	
24	国文学史 一上代より近世まで一 (慶応義塾大学通信教育教材)	昭34・6	慶応通信	H106	
25	日本文学史 総説 (昭35・4 改訂新版 昭39・6)	昭35・4	至文堂	H57	A12-1, 3
26	高等学校日本文学史 (角川版日本文学史の改版)	昭44・1	角川書店		
3 日本文学研究史に関する著作					
27	契沖伝 (朝日版「契沖全集」第九巻)	昭2・7	朝日新聞社		A8-1~3
28	国学史と国文学	昭13	帝大プリント連盟		
29	国学と玉たすき (日本精神叢書 47)	昭15・9	文部省教学局	H111	
30	国学 一その成立と国文学との関係一	昭16・3	至文堂	H11	A7-9~12
31	契沖の生涯 (日本文化名著選)	昭17・1	創元社	H12	
32	玉勝間と初山踏 (日本精神叢書 57)	昭18・3	文部省教学局	H112、H167	
33	日本文学研究史	昭32・7	山田書院	H11	A7-7, 8
34	契沖 (人物叢書)	昭38・8	吉川弘文館	H74	
35	日本文学研究史 (久松潜一著作集第十一巻)	昭44・9	至文堂	H11	A7-7~12
36	契沖伝 (久松潜一著作集第十二巻)	昭44・10	至文堂	H12	A8-1~3
4 日本文学評論史に関する著作					
37	歌学史の研究 一歌論を中心として一 (岩波講座「日本文学」)	昭7・2	岩波書店	H168	
38	日本文学評論史 (岩波講座「日本文学」)	昭7・7	岩波書店	H169	
39	明治文学評論の展開 (日本文化聯講 明治篇)	昭8		H5 △	
40	能楽論と文学精神 (国民精神文化類輯)	昭10・3	国民精神文化研究所	H75	
41	日本文学評論史 古代中世篇	昭11・10	至文堂	H3	A2-1~3
42	日本文学評論史 近世最近世篇	昭11・10	至文堂	H4	A2-4~6
43	[日本文学評論史批評集]	昭12	(至文堂)	(抜刷あり)	
44	日本文学評論史 総論歌論篇	昭13・4	至文堂	H5	A3-2~8
45	日本文学評論史 資料目録	昭14	(久松潜一)	H10	A7-6, B1-8
46	日本文学評論史 形態論篇	昭22・4	至文堂	H5	A3-1, 9
47	日本文学評論史 詩歌論篇	昭25・10	至文堂	H6	A4-1~4
48	日本文学評論史 近世近代篇 (「近世最近世篇」改訂版)	昭27・4	至文堂	H4	
49	日本歌論史の研究	昭38・7	風間書房	H87	A14-7
50	日本文学評論史 古代中世篇 (久松潜一著作集第三巻)	昭43・6	至文堂	H3	A2-1~3
51	日本文学評論史 近世近代篇 (久松潜一著作集第四巻)	昭43・7	至文堂	H4	A2-4~5
52	日本文学評論史 総論・歌論・形態論篇 (久松潜一著作集第五巻)	昭43・10	至文堂	H5	A3-1~10
53	日本文学評論史 詩歌論篇 (久松潜一著作集第六巻)	昭43・12	至文堂	H6	A4-1~4
54	日本文学評論史 理念表現論篇 (久松潜一著作集第十巻)	昭44・9	至文堂	H10	A7-1~6

	書名	刊行年月	出版社	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
5 和歌史に関する著作					
55	和歌史 (日本文化講座第一)	昭3・6	大村書店	H170	
56	中世歌論集 (岩波文庫)	昭9・3	岩波書店	H171	
57	鎌倉和歌史の二三の問題 (師範大学講座所収)	昭10			
58	賀茂真淵・香川景樹 (歴代歌人研究)	昭13・12	厚生閣	H76	
59	万葉と芭蕉	昭23・1	大八州出版	H78	
60	和歌史 総論古代篇	昭23・2	東京堂	H172	B2-7
61	中世和歌史序説	昭23・10	健文社	H77	A14-4,5
62	近代短歌 (日本文学教養講座2・木俣修氏と共著)	昭26・2	至文堂		
63	俳諧の文学	昭26・4	三省堂出版	H173	
64	短歌概説 (アテネ新書)	昭27・6	弘文堂	H2	A1-5
65	日本の詩歌 (万葉と芭蕉 増訂版)	昭28・9	同文書院	H37	
66	新古今集の新しい解釈 (国文注釈新書、沼波守氏協力)	昭29・4	至文堂		
67	新古今集 (アテネ文庫)	昭30・2	弘文堂	H174	
68	中世和歌史論 (塙選書)	昭34・9	塙書房	H79	A14-4~6
69	日本詩歌概論 (和歌史第一巻・「和歌史総論」増訂版)	昭35・5	東京堂	H175	B3-1~7
70	古代和歌史 (和歌史第二巻・「和歌史古代篇」増訂版)	昭35・11	東京堂	H176	B2-4~6, B4-1,2
71	中世和歌史 (和歌史第三巻)	昭36・8	東京堂	H177	
72	近世和歌史 (和歌史第四巻)	昭43・4	東京堂	H32、H178	A10-1~4
73	近世以前及近代 (和歌史第五巻)	昭45・12	東京堂	H179、K116	
6 上代文学に関する著作					
74	万葉集註釈書の研究 (「校本万葉集」所収)	大13・12	校本万葉集刊行会	H8	A5-1
75	万葉集の新研究	大14・9	至文堂	K29	
76	上代日本文学の研究	昭3・12	至文堂	H9	A6-1,2
77	増訂 万葉集の新研究	昭4・11	至文堂	H180	
78	上代民族文学とその学史	昭9・6	大明堂	H95	A6-3
79	万葉集考説	昭10・2	栗田書店	H94	A15-6
80	万葉集 (物語日本文学)	昭11・3	至文堂	H43	A11-1,2
81	神話伝説と国民精神	昭11	埼玉県教育会		
82	万葉集に現れたる日本精神	昭12・1	至文堂	H181	
83	万葉集 (日本思想叢書)	昭13・5	社会教育会		
84	原文頭注 評釈・研究 万葉集 (日本古典読本)	昭15・4	日本評論社	H46	
85	増訂 万葉集考説	昭17・1	栗田書店	H182	
86	古代詩歌に於ける神の概念 (志田延義氏と共著)	昭17・3	国民精神文化研究所	H183	
87	万葉研究史	昭23・2	要書房	H8	A5-2,3,6
88	万葉秀歌 一解釈及鑑賞一 (天明叢書)	昭23・10	天明社	H45	
89	神話伝説説話文学 (日本文学教養講座)	昭26・6	至文堂	H44	A11-3
90	万葉集入門 (要選書)	昭27・6	要書房	H47	A16-1
91	万葉集辞典 (アテネ文庫・安藤佳代子氏協力)	昭30・10	弘文堂	H48	
92	万葉集上 (現代語訳日本古典文学全集)	昭31・3	河出書房		
93	万葉集物語 (日本名作物語)	昭32・10	同和春秋社	H97	A11-1,2
94	万葉集とその前後	昭33・9	刀江書院	K53	A16-4,5
95	万葉集 上 (国語国文学研究史大成1 武田祐吉・森本治吉両氏と共編)	昭36・9	三省堂	H184	
96	万葉集入門 一人間と風土 (現代新書)	昭40・2	講談社	H49	
97	万葉集の研究(一) (久松潜一著作集第七巻)	昭44・3	至文堂	H7	A4-5,6
98	万葉集の研究(二) (久松潜一著作集第八巻)	昭44・4	至文堂	H8	A5-1~6
99	上代日本文学の研究 (久松潜一著作集第九巻)	昭44・7	至文堂	H9	A6-1~4
100	万葉集と上代文学 上代文学論考第七 (笠間叢書)	昭48・7	笠間書院	H93	A15-4,5
101	万葉秀歌 1~5 (講談社学術文庫)	昭51・6~51・10	講談社	H38~H41	
7 文学風土・思潮に関する著作					
102	国文学と民族精神 (思想問題小輯 第四)	昭9・12	日本文化協会出版部		
103	日本文学の特質 (日本文化小輯)	昭12・4	日本文化協会		
104	日本文学の精神	昭12・9	大日本図書出版	H187	
105	中世に於ける文学道の建立 (国民精神文化研究第35冊)	昭13・3	国民精神文化研究所		
106	我が風土・国民性と文学 (日本文化20)	昭13・5	日本文化協会出版部	H188	
107	日本文化の本質を語る	昭13	日本文化中央聯盟		
108	日本文学の思潮	昭14・7	河出書房	H84	
109	日本精神歌集 (日本精神叢書 7)	昭15・7	内閣印刷局	H186	
110	日本文化の特質 (新国民文化叢書)	昭17・6	目黒書店	H83	
111	日本古典の精神 (大東名著選 38)	昭17・8	大東出版社	H189	
112	古典講話一記紀万葉の精神 (敬神思想普及資料16)	昭19・10	神祇院		

	書名	刊行年月	出版社	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
113	日本文学と文芸復興	昭22・10	民生書院	H82	
114	日本文学風土と構成	昭23・6	紫乃故郷舎	H33	A1-2~4
115	改訂 日本文学の思潮	昭27・7	河出書房	H84	
116	日本文学思潮—史的展開— (太田善麿氏らと共著)	昭28・6	矢島書房	H108、H190	
117	日本文学の風土と思潮 (久松潜一著作集第二巻)	昭43・9	至文堂	H2	A1-2~5
8 随想雑記					
118	藤のうらは	昭3・10	東京国文社	H81	
119	万葉集(物語日本文学)	昭11・3	至文堂		
120	竹取物語 (物語日本文学) (訳)	昭11	至文堂		
121	増鏡 (物語日本文学) (訳)	昭11	至文堂		
122	西欧に於ける日本文学	昭12・7	至文堂	H68	A8-4
123	物語日本史 1 上古時代	昭12	雄山閣		
124	物語日本史 2 藤原時代(上・中・下)	昭12	雄山閣		
125	物語日本文学 2 伊勢物語 大和物語 (訳)	昭12	至文堂	H191	
126	物語日本文学 3 宇津保物語 (訳)	昭13	至文堂		
127	物語日本文学 12 紅葉露伴名作物語 (訳)	昭13	至文堂		
128	欧米諸国の国民性所見 (国民精神文化講演集)	昭13	国民精神文化研究所		
129	恩頼抄 一国文学雑記一	昭18・9	湯川弘文堂	H36	
130	万葉集の文学	昭26	三省堂出版		
131	日記・紀行の文学	昭26	三省堂出版		
132	随筆の文学	昭26	三省堂出版		
133	秋風抄	昭34・12	小竹文庫	H80	
134	年々去来 一国文学徒の思い出	昭42・10	広済社	H127	
135	国文学徒の思い出 (久松潜一著作集 別巻)	昭44・12	至文堂	H13	A8-4~7
136	私の履歴書	昭45・10	日本経済新聞社	H64	A12-4
137	冬花集	昭52・3	笠間書院	H67	
9 編纂・校註					
138	奥の細道 (教科書版、渡辺徹共編)	大9	中興館		
139	大鏡・増鏡	大9	中興館		
140	校本万葉集 (佐佐木信綱・橋本進吉・千田憲・武田祐吉氏と共編)	大13・12~14・3	校本万葉集刊行	K30~K39	
141	契沖全集 (新村出・佐佐木信綱・橋本進吉・武田祐吉氏と共編)	大15・1~昭2・11	朝日新聞社	K18~K28	
142	契沖全集 (監修、築島裕・林勉・池田利夫・久保田淳氏編)	昭48・1~51・5	岩波書店	H14~H29	A9-1~10
143	万葉集 (高木市之助と共編)	昭2	中興館		
144	校註堤中納言物語	昭3・5	明治書院	H130	
145	随筆文学集 (日本文学類従 3 校註)	昭5・2	博文館	H192	
146	校註伊勢物語 (改造文庫)	昭5・8	改造社	H110	
147	白石文抄教授参考書 (藤村作と共編)	昭7	山海堂出版部		
148	宣長文抄教授参考書 (藤村作と共編)	昭7	山海堂出版部		
149	校訂 万葉集 (日本思想叢書 第6編)	昭7	文部省社会教育局		
150	東西遊記抄教授参考書 (藤村作と共編)	昭7	山海堂出版部		
151	太平記抄教授資料 (藤村作と共編)	昭7	山海堂出版部		
152	俳文抄教授参考書 (藤村作と共編)	昭7	山海堂出版部		
153	八代集選釈	昭8・2	大明堂	H85	
154	保元平治物語抄教授参考書 (藤村作と共編)	昭8	山海堂出版部		
155	国文学新選 (野村宗朔・佐山済氏と共編)	昭10・1	武蔵野書院	H193	
156	文人篇 (類聚伝記大日本史 9)	昭10・2	雄山閣	H194	
157	万葉集総釈 (第12巻分担)	昭11	楽浪書院	H206	
158	栄華物語 上下	昭11	春陽堂		
159	無名草子 新註	昭12・3			
160	平家物語 (日本全書26、石津純道氏と共著)	昭12・9	楽浪書院		
161	日本文学史講話 上 (編著)	昭12・9	国民教育会		
162	蜻蛉日記	昭13	武蔵野書院		
163	国語国文学年鑑 第壹輯	昭14・11	靖文社	H207	
164	中古文学選集	昭15	明治書院		
165	国語国文学年鑑 第二輯	昭16・5	靖文社	H208	
166	中古詩歌日記選	昭16	明治書院		
167	校註 万葉集新選 (武田祐吉・澤瀉久孝氏と共編)	昭17・2	武蔵野書院		
168	国語国文学年鑑 第三輯	昭18・11	靖文社	H117、H209	
169	国語辞典(講談社学術文庫)		講談社		
170	西本願寺本 万葉集 1 (昭和八年竹柏会複製の縮字影印、佐佐木信綱、武田祐吉、共校、古典文庫 第一冊)	昭21・6	古典文庫		
171	西本願寺本 万葉集 2 (昭和八年竹柏会複製の縮字影印、佐佐木信綱、武田祐吉、共校、古典文庫 第二冊)	昭22・2	古典文庫		

	書名	刊行年月	出版社	請求記号 (△は一致すると推定されるもの)	原稿所蔵 記号
172	西本願寺本 万葉集 3 (昭和八年竹柏会複製の縮字影印、佐佐木信綱、武田祐吉、共校、古典文庫 第三冊)	昭23・1	古典文庫		
173	改訂増補源氏物語			H115	A15-7
174	国語国文学教育の方向 (編集)	昭24・5	健文社		
175	源氏物語の風土と人間 (源氏物語講座 上)	昭24・7	紫之故郷社	H210	
176	校訂堤中納言物語 (溝江徳明氏と共著)	昭25・4	文京書院		
177	校註 日本文芸新篇 思想評論選 (増淵恒吉氏共著)	昭25・5	武蔵野書院		
178	新編 国語辞典 (編集)	昭26・2	国民図書刊行会		
179	公任歌論集 (古典文庫)	昭26・7	古典文庫		B2-9
180	日本文学辞典 (アテネ文庫171 岡部政裕氏協力)	昭26・9	弘文堂	H213	
181	校註 日本文芸新篇 万葉集抄(武田祐吉、沢瀉久孝 共編)	昭26・9	武蔵野書院		
182	短歌俳句辞典 (監修)	昭27	学習社		
183	日本文学辞典 (西尾実氏共編)	昭29・3	学生社	H214	
184	八代集評釈(選釈の増訂)	昭29・4	大明堂	H86	
185	近代日本文学辞典(吉田精一氏と共編)	昭29・5	東京堂	H35	
186	国文学小辞典(市古貞次と共編乙骨明夫氏協力)	昭29・6	河出書房		
187	日本文学の歴史(毎日ライブラリー序説・上代の文学久松執筆)	昭30・5	毎日新聞社	H141	
188	日本文学史 六卷 (久松潜一責任編集、第六巻総説年表編の総説久松執筆)	昭30・11~34・4	至文堂	K85~K90	A16-2,3
189	少年少女のための現代日本文学全集 1~20(編集)	昭30	東西文明社		
190	国語辞典(武田祐吉氏と共編)	昭31・4	角川書店	H155	
191	古事記大成(全八冊 高木市之助氏らと共編)	昭31・11~33・5	平凡社	K145~K152	A16-8,9
192	新古今和歌集 (日本古典文学大系 28 山崎敏夫・後藤重郎氏と共校注)	昭33・2	岩波書店	H58	
193	古語辞典(武田祐吉氏と共編)	昭33・3	角川書店	H101	
194	近代秀歌 (定家自筆本複製)	昭34・4	武蔵野書院	H215	
195	風土記 上・下 (日本古典全書、小野田光雄氏協力)	昭34・10 35・10	朝日新聞社	K78、H100	
196	平安日記(国語国文学研究史大成5 秋山虔・池田正俊・喜多義勇氏と共編)	昭35・6	三省堂	H216	
197	日本文学(序説の部久松執筆)	昭35・6	有信堂	H139	
198	本居宣長集 (古典日本文学全集 佐佐木治綱他と共編)	昭36・2	筑摩書房	H30	
199	歌論集能楽論集 (日本古典文学大系、西尾実氏と共校注)	昭36・9	岩波書店	H59	
200	芸術論集 (古典日本文学全集、横沢三郎・守随憲治・安田章生氏と共編)	昭37・10	筑摩書房	H31	
201	日本の文学(文学案内八、今井源衛・高橋義孝氏と共編)	昭37・11	新潮社	H217	
202	国語国文学論叢(松平浜子八十賀記念論文集)	昭39・7	有明書房	H218	
203	平安鎌倉私歌集 (日本古典文学大系、松田武夫・関根慶子・青木生子氏と共校注)	昭39・9	岩波書店	H60	
204	現代日本文学大事典(木俣修氏らと共編)	昭40・11	明治書院	H219	
205	新潮国語辞典(監修、山田俊雄・築島裕氏編)	昭40・11	新潮社		
206	近世和歌集 (日本古典文学大系、高木市之助氏と共校注)	昭41・8	岩波書店	H61	
207	講談社国語辞典(久松潜一・林大・阪倉篤義監修)	昭41・11	講談社	H154	
208	詠歌之大概 (為秀本複製・土田将雄氏と共校)	昭42・9	笠間書院		
209	日本文芸の世界 一実方博士還暦記念一(大場俊助、実方清両氏と共編)	昭43・5	桜楓社	H220	
210	現代日本文学大年表 明治篇 (木俣修氏らと共編)	昭43・5	明治書院	H221	
211	落合直文・上田万年・芳賀矢一・藤岡作太郎集(明治文学全集44)	昭43・12	筑摩書房		
212	日本女流文学史(吉田精一氏と共編)	昭44・3	同文書院		
213	現代日本文学大年表 大正篇 (木俣修氏らと共編)	昭45・1	明治書院	H222	
214	歌論集 一 (中世の文学・編校)	昭46・2	三弥井書店		
215	塩井雨江・武島羽衣・大町桂月・久保天随・笹川臨風・樋口龍峽(明治文学全集41)	昭46・3	筑摩書房		
216	和歌秘伝抄 (幽齋奥書本複製)	昭46・5	笠間書院		
217	現代日本文学大年表 昭和篇1 (木俣修氏らと共編)	昭46・9	明治書院	H223	
218	方丈記 (大福光寺本複製)	昭46・10	日本古典文学学会		
219	万葉集講座1~7	昭47・12~50・10	有精堂	K128~ K133,K135	A16-6,7
220	無名草子 (彰考館本複製)	昭48・3	笠間書院	(抜刷あり)	
221	万葉集 (金沢本複製)	昭48・10	日本古典文学刊行会	H224	
10 著作の翻訳されたもの					
	論文名	刊行年月			
222	Some Essentials of Japanese Culture	昭13			
223	Concept of "Kami" in the Manyoshu(1)(2)(3)	昭15			
224	The Vocabulary of Japanese Literary Aesthetics	昭38			
225	The Characteristics of Beauty in the Japanese Middle Ages	昭41			
226	Arthur Waley and Japanese Literature Hisamatu Senichi Translated	昭41			
227	Lady Murasaki, a great Authoreas of world	昭45			
228	Biographical Dictionary of Japanese Literature	昭51			

雑誌・紀要・単行本所収論文 (編年)

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると推定されるもの)	原稿所有
229	賀茂真淵と本居宣長	大6・9	心の花		
230	万葉集に於る契沖と真淵	大7・11	心の花	H9	
231	万葉代匠記に就いて	大9・7	心の花		
232	続「上代国文学の研究」	大10・5	心の花		
233	万葉集を主材とせる小説	大10・11	心の花		
234	プッツマイヤーの「日本最古の詩歌」	大11・7	心の花	H9	
235	宣長の「物のあはれ」と「神ながらの道」	大11・4	東亜の光	H9	
236	契沖と春満との関係	大12・3	心の花	H9	
237	大伴旅人雑感	大12・4	心の花		
238	東大図書館の思出	大12・10	心の花		
239	藤原時代の爛熟生活	大12・10	中央史壇	H9	
240	万葉女歌人に就いて	大13・1	心の花		
241	契沖資料の所在文庫について	大13・2	日本教育		
242	浦島伝説	大13・5	国語と国文学		
243	契沖の文学批評	大13・6	国語と国文学	H4 △	
244	元禄時代と文芸復興	大13・10	国語と国文学	H4 △	
245	山部赤人に就いて	大13・11	心の花		
246	村上忠順の集書	大14・1	心の花		
247	万葉集の女性	大14・4	国語と国文学		
248	二葉亭の女性	大14・4	国語と国文学		
249	柿本人麿に就いて	大14・6	心の花		
250	契沖の跡をたづねて	大14・9	心の花		
251	源氏物語論の考察	大14・10	国語と国文学	H4 △	
252	新訳古事記を読む	大14・10	心の花		
253	貞徳の和歌宝樹	大15・1	奈良文化		
254	平安時代の短編小説	大15・2	国語教育	H9	
255	万葉主義の歌論に就いて 一田安宗武を中心として一	大15・3	心の花	H4 △	
256	祝詞の表現に就いて	大15・4	国語教育	H9	
257	平安朝時代の和歌の展開	大15・5	国語と国文学		
258	宣長の歌の技巧論	大15・6	ポトナム		
259	契沖の先達論	大15・7	短歌雑誌		
260	契沖の学説に就いて	大15・7	心の花	H9	
261	藤原定家の和歌十体論	大15・8	東亜の光		
262	国文学を流れる三つの精神	大15・10	観想	H9	
263	歌論家としての紀貫之	大15・11	国語教育	H3	
264	大和時代文学概説	大15・11、昭2・1	新潮日本文学講座	H9	
265	雅望書入狭衣物語	昭2・1	黒潮	H9	
266	近世歌格論者の万葉集観	昭2・1	早稲田文学	H9	
267	「国語文学研究史」(野村八郎)	昭2・2	国語と国文学		
268	源氏物語の「若菜」其他	昭2・2	国語教育	H9	
269	勅選和歌集の類礎	昭2・3	奈良文化		
270	御葬儀の記(芳賀矢一)	昭2・4	国語と国文学		
271	長歌の本質	昭2・4	国語と国文学	H9	
272	石橋忍月の小説論	昭2・4	国語教育	H4 △	
273	芳賀先生を偲ぶ	昭2・5	心の花		
274	国家的精神の考察	昭2・10	国語と国文学	H9	
275	鎌倉時代の歌論 一幽玄有心の歌論一 「日本文学講座第12巻」	昭2・11	新潮社	H5	
276	万葉集と文学生活 (日本文学聯講 1)	昭2	中興館		
277	日記文学と女性 (日本文学聯講 1)	昭2	中興館		
278	西行と実朝 (日本文学聯講 1)	昭2	中興館		
279	古今集より新古今集まで (日本文学聯講 1)	昭2	中興館		
280	香川景樹のしらべに就いて	昭3・1、5・10	東亜の光	H4△ H76△	
281	京極黄門言談に関する疑	昭3・3	水甕	H5	
282	万葉集の体言止について	昭3・3	短歌雑誌		
283	室町時代歌論の二元的対立	昭3・3	日本教育		
284	長歌の本質	昭3・4	国語と国文学		
285	記紀歌謡の具象性と象徴性	昭3・4	詩歌	H9	
286	日本文学批評に於ける道徳的要素	昭3・4、10	神道学雑誌	H5 △	
287	人麻呂歌集に就て	昭3・6	青垣		
288	歌論と狂歌論との関係	昭3・9	二年生教育	H4 △	
289	今世歌論に於ける古典派より現代派へ	昭3・9	詩歌	H4 △	
290	日本文学批評の発生	昭3・10	国語と国文学	H3 △	

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
291	馬琴を中心とした勸善懲悪主義の文学論	昭3	第八高等学校校友会雑誌	H3 △	
292	近世以前の万葉批評の変遷	昭3	寧楽	H3 △	
293	歴史物語 (芳賀矢一遺著)	昭3	富山房		
294	和歌史 (日本文化講座 第1巻)	昭3	大村書店		
295	源経信の歌論 (難後拾遺と後拾遺問答)	昭4・1、2、4	心の花	H3	
296	明治初期の文学論	昭4・3	教育論叢	H4 △	
297	近代歌論と古典文学との関係	昭4・3	明治聖徳記念学会紀要	H4 △	
298	賀茂真淵と万葉集	昭4・3	鶴故郷	H4 △	
299	歌論と連歌論との関係	昭4・3	瑞陵史叢	H3	
300	富士谷御杖と桂園派	昭4・4	国の光	H4 △	
301	若き万葉研究者のために 一万葉研究の方法に就いて一	昭4・5	国語と国文学		
302	古代文学批評の完成	昭4・5	思想	H3	
303	まことに就いて	昭4・7	東京帝国大学新聞	H5△ H4△	
304	明治時代に於ける詩歌論の発達	昭4・7	目白文学	H4 △	
305	日本古代中世の文芸思潮 (大思想エンサイクロペディア文芸思想篇)	昭4・10	春秋社	H5 △	
306	万葉集に現はれたる文学意識	昭4・10	国学院雑誌	H3 △	
307	森鷗外の自然主義批評	昭4・10	日本教育	H4 △	
308	永福門院	昭4・10	国語と国文学		
309	公任の新撰髓脳	昭4・11、5・8	歌と評論	H3 △	
310	常陸風土記の跡を訪ねて	昭4・11	国語と国文学		
311	軍記物語の性質 (日本文学聯講 2)	昭4	中興館		
312	さざめごとの成立年代の疑	昭5・1	東京帝国大学新聞		
313	幽玄論の変遷の一動機	昭5・1	東京朝日新聞	H5	
314	幽玄の語の出典その他	昭5・1	歌と評論	H3 △	
315	新古今時代の文学思潮 一妖艶美に就いて一	昭5・1	水甕		
316	「荷田全集」に就いて	昭5・1	国語と国文学		
317	宣長の文学論に於ける内容と形式との調和	昭5・4	国学院雑誌	H4 △	
318	祝詞文の形象と表現意識	昭5・4	国語と国文学		
319	明治初期の万葉集批評に就いて	昭5・4	奈良文化	H4 △	
320	明治初期の古今集批評	昭5・8	水甕	H4 △	
321	石山徹郎氏著「文芸学概説」に就いて	昭5・8	国語と国文学		
322	為家平淡美歌論	昭5・10	国の花	H3 △	
323	幽玄の妖艶化と平淡化 一正徹心敬の文学論の一考察一	昭5・12	国語と国文学	H3	
324	新古今集批評としての在満の「わざ」	昭5・12、6・1、2	あざみ	H3 △	
325	正倉院文書と文学意識	昭5	寧楽	H3	
326	神楽歌の前張の形式	昭6・1	詩歌		
327	新古今時代の文学思潮 一妖艶美に就いて一	昭6・1	水甕		
328	文学評論としての「さび」	昭6・2	言語と文学	H4 △	
329	島津久基氏著「対訳源氏物語講話」	昭6・3	国語と国文学		
330	日本文学の精神 (日本文学概説第一章 岩波日本文学講座)	昭6・6	岩波書店	H5 △	
331	宗祇の文学と古典的観照	昭6・6	歌と観照	H3	
332	「さび」の理念 一万葉集に現はれた「さぶし」に就いて一	昭6・6	東京帝国大学新聞		
333	古典籍の展覧	昭6・7	心の花		
334	中世文学に於ける道と型 一兼好・良基を中心とする一考察一	昭6・10	国語と国文学	H3 △	A2-3
335	離俗と古典美 一蕪村の俳論に関して一	昭6・10	歌と観照	H4 △	
336	歌合の批評史的意義	昭6・11	東洋学苑	H3	
337	「日本文学叢考」	昭6・12	国語と国文学		
338	万葉集に現はれた「もの」「あはれ」「さぶし」	昭6・12	国文学踏査	H5	
339	井上尠著「祖国を出でて」	昭6・12	国語と国文学		
340	伝授と制禁の詞の一考察	昭6・12	大正学報	H4 △	
341	柿本人麿と神・人の思想 (万葉学論纂)	昭6	明治書院		
342	禁制の詞とその破壊	昭7・1	水甕		
343	歌学史の研究 一歌論を中心として一 (岩波講座日本文学 3)	昭7・2	岩波書店	H5 △	
344	日本文学評論史	昭7・2	岩波書店		
345	坪内逍遙の文学評論	昭7・4	国語と国文学	H4 △	
346	東歌と催馬楽と風俗歌との関係	昭7・4	奈良文化		
347	蘆庵の情の解釈について	昭7・4、5	歌と観照	H4 △	
348	中世に於ける物語批評の考察	昭7・6	日本文学論纂	H3	
349	岡不崩氏著「万葉集草木考」	昭7・6	国語と国文学		
350	文学の復帰性 (国文学者一夕話)	昭7・6		H4 △	
351	万葉集の詩形に関する断想 (万葉集論考所収)	昭7・6	素人社書屋		
352	玉葉集に採られた万葉歌 (万葉集論考所収)	昭7・6	素人社書屋		
353	歌論史断片	昭7・7	歌と評論	H5 △	
354	歌格概説	昭7・7	短歌講座	H5 △	
355	神皇正統記より契沖へ	昭7・8	国語と国文学	H9	

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
356	国学精神の展開より見た平田篤胤	昭7・9	国学院雑誌	H9	
357	富士谷成章と和歌史観	昭7・10	国語と国文学	H4 △	
358	地名説話の類型と三輪山説話	昭7・10	国語・国文		
359	風土記と説話	昭7・11	寧楽文化の研究		
360	六条家の歌論の特質と俊成との関係	昭7・12	東洋学苑	H3	
361	和語抄逸文に就いて (上代日本文学の研究所収)	昭7		H3 △	
362	古代及奈良朝文学概観 (日本文学講座 3)	昭7	新潮社		
363	国学の精神 (日本文学聯講 3)	昭7	中興館		
364	国文学に於ける仏教的理念	昭8・1	宗教研究	H3 △	
365	文学界以前の浪漫的文学論	昭8・1	丘	H4 △	
366	大伴家持 (万葉集講座 1 所収)	昭8・2	春陽堂	K40	
367	「新続芭蕉俳諧研究」	昭8・3	国語と国文学		
368	歌論史断片	昭8・3	水甕		
369	「新撰髓脳」の構成	昭8・3、4、5	短歌研究	H5	
370	学以前と学	昭8・5	文学		
371	明治初期の歌論 一海上胤平考補遺一	昭8・5、11	装填	H5	
372	万葉歌人の名について	昭8・6	万葉集新論叢		
373	阿蘇より天竜峡へ一紀行一	昭8・6	家庭週報	H157	
374	短歌批評史	昭8・8	短歌研究	H5	
375	古今主義の歌論	昭8・8	国の花	H4 △	
376	真実なる感動	昭8・9	文学		
377	出版月評と篁村・学海の近世小説論	昭8・11	書物展望	H4 △	
378	「万葉集難語訓攷」	昭8・12	国語と国文学		
379	新派勃興以後の明治の和歌 (日本文学聯講 5)	昭8	中興館		
380	明治文学評論の展開 (日本文学聯講 5)	昭8	中興館		
381	上代日本文学史概説 (上代日本文学講座 1)	昭8	春陽堂		
382	万葉集の歌体美 (万葉集講座 5 所収)	昭8	春陽堂	(抜刷あり)	
383	随筆と文学意識	昭9・1	文学		
384	新撰髓脳より近代秀歌までの展開過程	昭9・1	歌と評論	H5	
385	民族と文学	昭9・2	コトバ		
386	明治以前小説評論史「日本文学講座」(改造社)所収	昭9・2	改造社	H5	
387	日本古典の精神 一大和時代文学の性質一	昭9・3	新潮		
388	平安時代の女性と精神生活	昭9・3	心の花		
389	隠れたる歌学者のこと 一斎藤彦麿歌論書の紹介一	昭9・4	短歌研究	H5	
390	北田薄氷	昭9・4	明治文学		
391	万葉集の歌人	昭9・4	文検世界		
392	万葉集の背景	昭9・4	国語教育		
393	文学論に於ける写実性と浪漫性 一史劇論を中心として一	昭9・5	国語と国文学	H4 △	
394	歌論及歌学概論「日本文学講座」(改造社)所収	昭9・5	改造社	H5	
395	万葉集秀歌鑑賞講座	昭9・5～10・3	むらさき	H45	
396	「万葉集新釈」と「万葉集全釈」	昭9・7	国語と国文学		
397	文学意識を中心とした研究 一最近に於ける国語・国文学界の動向一	昭9・7	文学		
398	風土記と地方生活	昭9・7	国語教育		
399	明治の文学評論	昭9・8	国語と国文学		
400	為相と冷泉家歌学の誕生	昭9・8	文学	H5	
401	沼沢竜雄氏著「日本文学史表覧」	昭9・10	国語と国文学		
402	国文学界の動向	昭9・10	日本短歌		
403	古代文学に現はれた市その他	昭9・11	万葉集研究		
404	万葉集の地誌的背景 一引馬野・安礼乃崎考一	昭9・11	文学		
405	国文学史に於ける万葉美	昭9・12	上代国文		
406	中世の幽玄論と道 丁酉倫理講演集	昭10・1		H3△ H5△	
407	秋篠月清集と拾玉集 一良経と慈鎮一	昭10・1	国語教育		B2-1
408	東歌に関して (1～3)	昭10・1、2	家庭週報		
409	万葉集の季節感と年中行事	昭10・3	国語・国文		
410	古典研究法	昭10・3	月刊文章講座		
411	能楽論と文学精神	昭10・5	国民精神文化類聚	H3 △	
412	為家論	昭10・6、7、8	多磨	H5	
413	近世に於ける文芸学の発生 一歌論物語論俳論の建説一	昭10・11	日本精神文化	H4 △	
414	ウエレイ氏と語る	昭10・12	国語と国文学		
415	国文学研究法と国語教育 (日本文学の本質と国語教育 所収)	昭10	岩波書店		
416	山上憶良の歌一首	昭11・6	解釈と鑑賞	H45	
417	月光のものと彼南 一遊欧日記から一	昭11・6	家庭週報		
418	欧州の演劇所見	昭11・6	家庭週報		
419	批評史の研究に就いて	昭11・7	国語と国文学	H5 △	
420	藤村・随筆	昭11・8	文学		

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
421	柿本人麿の歌一首	昭11・8	解釈と鑑賞	H45	
422	日本文学に於ける「あはれ」と其深化 (世界文芸大辞典 月報)	昭11・8		H5 △	
423	菊地寿人氏著「万葉集精考」	昭11・9	国語と国文学		
424	日本評論史に於ける美論 一心詞を中心として一	昭11・10	文学	H5	
425	古事記の解釈に就いて	昭11・12	国語解釈		
426	高市の黒人の歌	昭11・11、12	解釈と鑑賞	H45 △	
427	日本文学の世界性	昭11・12	文学		
428	歌道と教育 (岩波講座国語教育 1)	昭11	岩波書店		
429	日本文献学 (岩波講座国語教育 2)	昭11	岩波書店	(抜刷あり)	
430	クリスマスから新年へ	昭12・1	家庭週報		
431	国文学の領域	昭12・2	国語と国文学		
432	日本詩歌の特質 一短詩形への推移一	昭12・2	俳句研究		
433	国文学の問題	昭12・3	国民精神文化		
434	万葉談義	昭12・3	明日香		
435	大伴家持歌抄	昭12・3、4、6	解釈と鑑賞	H45 △	
436	芳賀博士と国文学史の研究	昭12・4	国語と国文学	H5 △	
437	批評的研究の意義と位置	昭12・4	文学	H5	
438	歴史・風土・文学	昭12・4	学苑		
439	「恋愛無限」と古典精神	昭12・4	文芸懇話会		
440	東圃博士と李花亭文庫	昭12・5	国語と国文学		
441	詩歌論に於ける中世より近世へ一細川幽齋に於ける中世的なるもの一	昭12・5	日本短歌	H5	
442	西欧に於ける万葉集	昭12・5	文学		
443	随筆的性格 一日本文学評論の特質一	昭12・5、7、8	短歌研究	H5	
444	富士谷派の学問史的意義	昭12・6	国民精神文化	H5	
445	古事記(古典文学読本)	昭12・6	文芸懇話会		
446	平安文学の一考察 一枕草子を中心として一	昭12・7	歴史教育	(抜刷あり)	
447	茶の本	昭12・8	文芸文化		
448	山上憶良歌抄	昭12・8	解釈と鑑賞	H45 △	
449	日本の風土と文学	昭12・8	文学		
450	古代風習より見たる人の一生の行事	昭12・8	国語教育		
451	「国木田独歩」その他	昭12・8	家庭週報		
452	古今集序の業平批評私見	昭12・9	国語と国文学	H5	
453	万葉集論 一写生詩と抒情詩一	昭12・10	文芸復興	H5	
454	国文学の問題	昭12・10	国語と国文学		
455	笠金村歌抄	昭12・10、11	解釈と鑑賞	H45 △	
456	上田先生を悼んで	昭12・12	国語と国文学		
457	幽玄論	昭12・12	俳句研究	H5	
458	文学 (日本文化史大系 2)	昭12	誠文堂新光社		
459	散文学に於ける歌物語的形態	昭13・1	短歌研究		
460	田辺福麿	昭13・1	解釈と鑑賞	H45 △	
461	古代の小説批評の考察	昭13・1	日本文学論攷		
462	国語国文学会の感想など	昭13・1	解釈と鑑賞		
463	古事記と「ますらをぶり」 一日本武尊を中心として一	昭13・1	国語教育		
464	文学論における表現の類型	昭13・1	日本短歌		
465	義理と人情	昭13・1	新日本		
466	国民性に就いての随想	昭13・2	文学		
467	日本文学論と道	昭13・3	日本語学振興委員会研究報告	H5 △	
468	有心体補遺	昭13・4	短歌研究		
469	国文学に於ける国学への志向 一国文学の動向一	昭13・4	国民精神文化		
470	日本文学論と漢文学覚書	昭13・4	国語と国文学		
471	初心不可忘	昭13・4	国語教育		
472	新卒業生に饞ける言葉	昭13・4	家庭週報		
473	日本文学精神と風土 一水辺文学の諸相一	昭13・5	日本評論	H2	
474	日本文学研究の意義	昭13・5	古典研究		
475	万葉と古今との間	昭13・5	明日香		
476	上田万年先生と新体詩歌集	昭13・5	方言		
477	日本文学の起原	昭13・7	国語教育		
478	万葉集と国民性	昭13・7	短歌研究		
479	近世に於ける小説批評	昭13・7、8、10	文芸文化		
480	「をかし」と無心	昭13・8	文学		
481	つひにゆく道	昭13・8	むらさき		
482	国学・文芸学・日本学	昭13・9	理想		
483	古典	昭13・9	文芸文化		
484	日本文学に於ける理と情 一日本文学精神の一課題一	昭13・9	国語と国文学	H2(抜刷あり)	
485	「東の市」其他	昭13・9	解釈と鑑賞		

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
486	現代と国学	昭13・10	文学		
487	「雪の山」に就いて 一枕草子一	昭13・12	文学		
488	日本書記 (上代日本文学講座 5 所収)	昭13	春陽堂		
489	古代中世文学に於ける人間観 (人間学講座 3)	昭13	理想社出版部		
490	季節の美と日本美論	昭14・1	短歌研究	H2	
491	万葉精神の普遍性	昭14・1	文学		
492	景樹に関して	昭14・1	歌と評論		
493	小山正氏著「賀茂真淵伝」	昭14・1	国語と国文学		
494	古典教材について 小学国語読本の改訂と中等国語教科書	昭14・1	家庭週報		
495	古事記の精神	昭14・2	解釈と鑑賞		
496	和歌に現れた愛国詩文	昭14・4	解釈と鑑賞		
497	平田篤胤の国学	昭14・4	国語教育		
498	国学と古典精神	昭14・4	国語と国文学		
499	万葉集に就いて	昭14・5	解釈と鑑賞		
500	道行文の構成に就いて 一俊基東下りを中心として一	昭14・8	解釈と鑑賞		
501	芸道の修行	昭14・8	国語教育		
502	家隆の歌一首	昭14・8	文学		
503	永福門院	昭14・8	文芸文化		
504	国学の意義	昭14・10	国語と国文学		
505	歌合の日本的性格	昭14・10	文学		
506	日本文学に於ける批評の類型	昭14・11	短歌研究		
507	「女身万葉(書評)」	昭14・11	解釈と鑑賞		
508	近世日本精神発達史 (夏期日本文化講座講演集)	昭14			
509	富士谷御杖の百人一首 灯	昭15・1	図書館雑誌		B2-2
510	国文学史と二千六百年	昭15・1	国語と国文学		
511	万葉集の名歌に就いて	昭15・1	歌と評論		
512	荷田在満論	昭15・1	心の花		
513	記紀と日本古典	昭15・2	短歌研究		
514	国文学談叢[契沖]	昭15・2	鶯		
515	近世の文学精神に就いて	昭15・3	国語教育		
516	国文学談叢[万葉集註釈書]	昭15・3	鶯		
517	「鷗外の方法」に就いて	昭15・3	文芸文化		
518	国文学談叢[万葉集]	昭15・4	鶯		
519	国文学史研究と藤岡博士	昭15・4	国語と国文学		
520	万葉集の女歌人	昭15・5	明日香		
521	国文学談叢[上代文学]	昭15・5	鶯		
522	国文学談叢[風土記]	昭15・6	鶯		
523	国文学談叢[中世の和歌について]	昭15・7	鶯		
524	本居宣長(一)(二)	昭15・6、7	文芸世紀		
525	花鳥風月と日本の風土	昭15・8	短歌研究	H2	
526	文体美	昭15・8	文学		
527	国文学談叢[続中世和歌]	昭15・8	鶯		
528	賀茂真淵の文意考	昭15・8	歴史と国学		
529	万葉集選釈(一)~(四)	昭15・8、9、12、16・1	解釈と鑑賞	H45 △	
530	国文学談叢[百人一首の和歌史論]	昭15・9	鶯		
531	国文学談叢[新葉集と李花集]	昭15・10	鶯		
532	万葉集書入本三種の考察	昭15・10	国語と国文学		
533	明治文学に於ける日本的自覚	昭15・11	解釈と鑑賞		
534	国文学談叢[新葉和歌集と李花集]	昭15・11	鶯		
535	国文学談叢[香川景樹]	昭15・12	鶯		
536	文献学的研究と考証学 一伴信友を中心として一	昭15	安藤教授還暦祝賀記念論文集	(抜刷あり)	
537	山柿と日本的性格	昭16・1	国語と国文学	H7	A4-6
538	山の文学美と宗教性	昭16・1	短歌研究	H2	
539	国文学談叢[続 香川景樹について]	昭16・1	鶯		
540	皇室と日本詩歌	昭16・4	国語と国文学		
541	歴史的かな遣と表音符号で	昭16・4	文学		
542	古事記の歌謡	昭16・4	解釈と鑑賞		
543	表現に就て	昭16・5	解釈と鑑賞		
544	永福門院	昭16・5	明日香		
545	白紙の文学	昭16・6	短歌研究		
546	後撰拾遺時代の万葉研究 一万葉研究史の一節一	昭16・6	文学	H8	
547	歌よみ、連歌師、俳人 一隠に於ける気魄気骨一	昭16・7	短歌研究		
548	「万葉集函録」につきて	昭16・9	心の花		
549	文化と国民的性格	昭16・9	解釈と鑑賞		
550	万葉時代概説	昭16・9	学苑		

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
551	森本治吉氏著「万葉集の芸術性」「万葉集新見」	昭16・10	国語と国文学		
552	眞淵、久老、彦麿の万葉研究	昭16・10	国語と国文学	H8	
553	国民詩としての俳諧	昭16・10	俳句研究		
554	万葉集選釈誦習考(一)(二)	昭16・10、17・2	解釈と鑑賞		
555	万葉 一歌経としての万葉集一	昭16・11	文芸		
556	日本学問の伝統と国学	昭16・12	文芸世紀		
557	伊勢と国学者	昭16・12	心の花		
558	古典文学に現はれた正月	昭17・1	解釈と鑑賞		
559	国学と「民間伝承論」	昭17・1	文芸文学		
560	万葉集解釈の一態度	昭17・1	文学		
561	詩歌と国民的感動	昭17・2	短歌研究		
562	国民詩人と俳諧	昭17・2	さいかち		
563	日本詩歌の作家	昭17・3	解釈と鑑賞		
564	国学について	昭17・4	国語文学		
565	愛国歌(万葉集選釈)	昭17・4、5	解釈と鑑賞		
566	日本詩歌に於ける言語	昭17・5	国語と国文学		
567	「風雅のまこと」の伝統	昭17・6	俳句研究		
568	宣長の古典論	昭17・6	文学		
569	「上代歌謡」木本道房著 によせた「序」	昭17・7			B2-3
570	俳諧精神	昭17・8	国語文化		
571	上代文学の美	昭17・9	解釈と鑑賞		
572	日本学問の伝統と国学	昭17・11	二松論纂		
573	宣長とその周囲	昭17・12	解釈と鑑賞		
574	後撰拾遺時代の万葉研究	昭17	文学	H8	
575	国学と文学史観 (日本諸学講演集 第四輯)	昭17	文学省教学局		
576	加茂真淵と万葉精神	昭17	弘道	H8	
577	日本古典の伝統 一古事記伝の成立一	昭18・1	短歌研究		
578	明治中期に於ける国史編纂と国文学史	昭18・2	国語と国文学		
579	藤岡東圃の学問	昭18・3	文学		
580	古事記の古本	昭18・4	文芸世紀		
581	桜花歌一首并短歌(万葉集選釈)	昭18・4	解釈と鑑賞		
582	柿本朝臣人麿集歌日(万葉集選釈)	昭18・5	解釈と鑑賞		
583	日本詩歌と国土美	昭18・6	俳句研究		
584	古典と古典教育	昭18・8	文学		
585	古今集の精神	昭18・9	短歌研究		
586	本居宣長の門下	昭18・9	解釈と鑑賞		
587	小中村清矩の学問 一国学と国文学との関係に関して一	昭18・10	国語と国文学	(抜刷)	A7-3
588	慕振勇士名歌一首并短歌(万葉集選釈)	昭18・11	解釈と鑑賞		
589	わが師を語る	昭18・12	文学報国		
590	出陣学徒を送る	昭18・12	国語と国文学		
591	日本文学に於ける死の超克 (「超克の美」所収)	昭18	昭森社		
592	本居宣長の国学精神 一玉銚百首その他による一	昭19・1	短歌研究		
593	古事記上表文の考察	昭19・2	古事記研究		
594	古典と「まこと」	昭19・2	文芸世紀		
595	皇国文学を貫くもの	昭19・3	解釈と鑑賞		
596	文学地理学の構想	昭19・3	文学		
597	川田順氏の研究について	昭19・3	心の花		
598	吉野時代と万葉研究 一成俊と由阿一	昭19・5	国語と国文学	H8	
599	万葉集と文学地理	昭19・6	短歌研究		
600	東歌(万葉集選釈)	昭19・6、7	解釈と鑑賞		
601	世阿弥の能楽論について 一シテ・ワキ・時・その他一	昭19・8	文芸文学		
602	上代古典研究の伝統	昭19・8	国学院雑誌	H8 △	
603	防人歌(万葉集選釈)	昭19・8、11、20・1	解釈と鑑賞		
604	忠岑十体より定家十体へ	昭19・9	解釈と鑑賞		
605	日本学問の伝統と菅公	昭19・9	国語と国文学		
606	学問に於ける永遠と今	昭19・9	文学		
607	契沖の万葉集研究について	昭19・11	文芸世紀	H8	
608	木村正辞の万葉研究 (橋本博士還暦記念 国語学論集)	昭19	岩波書店		
609	伴信友の万葉研究 一信友書入万葉集について一	昭20・2	国語と国文学	H8	A5-4
610	学行一如の精神 一国体護持の道統を継がん一	昭20・3	文学報国		
611	家持抄(万葉集選釈)	昭20・2、4	解釈と鑑賞		
612	橋本博士と国文学	昭20・5	国語と国文学		
613	手児名考其他(万葉集選釈)	昭20・6、12	解釈と鑑賞		
614	下河辺長流の万葉研究	昭20・9	短歌研究	H8 △	
615	日本の文化について	昭20・9、12	国語と国文学		

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
616	虎関師錬の詩観 —文学評論史考—	昭20・9、12	国語と国文学		
617	本居宣長の書簡について	昭20・10	文学		
618	麻里布浦行之時歌(万葉集選積)	昭21・1	解釈と鑑賞		
619	憶良抄(万葉集選積)	昭21・3	解釈と鑑賞		
620	国文学に対する反省と自覚	昭21・3	国語と国文学		
621	万葉集の古今相聞往来	昭21・4	遠天		
622	定家と家隆	昭21・5	碧落		
623	俳諧のまこと	昭21・5	風		
624	明治文学史のこと	昭21・6	日本女子大国文学部時報		
625	古代文学小史	昭21・7	解釈と鑑賞		
626	漢詩論史 —特にその近世初期—	昭21・7	日本歴史		
627	作品研究と作家研究	昭21・8	日本女子大国文学部時報		
628	万葉集百首解について	昭21・10	遠天		
629	外山正一と文学論 —文学評論史考二—	昭21・10	国語と国文学		
630	「外山正一と文学論」追記	昭21・11	国語と国文学		
631	諸成書入本万葉集	昭22・1	白路		
632	花月草紙に現れた詩歌論	昭22・1	心の花	H87 △	
633	東海道の文学	昭22・2	東海人		
634	鷗外の美学の移入と詩歌論 —文学評論史考三—	昭22・6	国語と国文学		
635	後拾遺集と女歌人	昭22・6	心の花		
636	日本の文学論争の歴史	昭22・7	解釈と鑑賞		
637	古代文学思潮の展開 —特に長高調について—	昭22・8	国民の歴史		
638	短歌の形態美	昭22・10	短歌研究		
639	日本文学研究について	昭22・10	解釈と鑑賞		
640	万葉集抄[一]～[四二]	昭23・3～31・3	解釈と鑑賞		
641	国語教育と教材研究	昭23・4	国語と国文学		
642	明治大正昭和三代の歌学	昭23・5	心の花		
643	明治中期に於ける韻律論	昭23・6	国語と国文学		
644	風雅集について	昭23・8	沃野		
645	現代短歌批判	昭23・9	短歌研究		
646	万葉集抄 —4—	昭23・9	解釈と鑑賞		
647	「梁塵秘抄」(竹柏園先生記念号)	昭23・9	心の花		
648	有心連歌と和歌の有心体との関係	昭23・10	日本学士院紀要		
649	契沖と宗因	昭23・10	碧落		
650	万葉集抄 —5—	昭23・11	解釈と鑑賞		
651	学問と信仰 (対談)	昭23・11	知と行		
652	万葉集抄 —6—	昭23・12	解釈と鑑賞		
653	西鶴と明治文学 (年刊西鶴研究 復刊第1集)	昭23	古典文庫		
654	永福門院 (日本女流文学評論 中世篇 近世篇)	昭23	明日香書房		
655	天平時代の彫刻と万葉集との関係 (小山美術新書1)	昭23	小山書店		
656	山の文学と水の文学 (現代随筆選集1)	昭23	金星堂		
657	源氏物語と日本的なもの (現代随筆選集1)	昭23	金星堂		
658	旅する心 (現代随筆選集1)	昭23	金星堂		
659	石橋忍月と文学評論 —文学評論史考5—	昭24・1	国語と国文学		
660	文学と女性(随筆)	昭24・1	いづみ		
661	万葉集抄 —7—	昭24・2	解釈と鑑賞		
662	万葉集抄 —8—	昭24・4	解釈と鑑賞		
663	入学する学生に	昭24・4	日本女子大学新聞	H157	
664	万葉集抄 —9—	昭24・6	解釈と鑑賞		
665	島津博士を憶ふ	昭24・6	国語と国文学		
666	源氏物語の風土と人間	昭24・7	(源氏物語講座)		
667	万葉集抄 —10—	昭24・9	解釈と鑑賞		
668	国文学に現れた日本女性の特質	昭24・9	いづみ	H157	
669	近代秀歌の原形について	昭24・10	国語と国文学	H87	
670	日本文学と人間性	昭24・10	弘道		
671	万葉集抄 —11—	昭24・11	解釈と鑑賞		
672	万葉集抄 —12—	昭24・12	解釈と鑑賞		
673	短歌の形態と芸能との関係 (日本芸能史講話 所収)	昭24	紫乃故郷舎		
674	歌ものがたり (万葉秀玉集)	昭24	明治書院		
675	麻生[磯次]氏の「日本文学史」(書評)	昭25・1	解釈と鑑賞		
676	太田水穂著「日本和歌史論・中世編」(書評)	昭25・3	国語と国文学		
677	万葉集抄 —13—	昭25・3	解釈と鑑賞		
678	形成 —まぎらばしい文芸評語の知識—	昭25・6	解釈と鑑賞		
679	香川景樹の歌論の意義	昭25・6	日本歴史		
680	明治初期に於ける修辞学文学論の移入	昭25・7	国語と国文学		

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
681	石川依平の歌と書簡と (上・中・下)	昭25・7、8、11	心の花		
682	日本文学研究法について	昭25・8	日本文学教室		
683	「日本和歌史論・中世編」を読む	昭25・9	潮音		
684	謡曲の素材 —上代説話を扱った作品—	昭25・11	能		
685	心敬の連歌論について	昭25・12	日本文学教室		B2-8
686	連歌論の固定—宗祇以後 (国文学の新研究 藤村博士帰還記念論文集)	昭25	愛知書院		
687	日本文学評論史 (日本文学講座7 所収)	昭26・1			
688	契沖の人間と学問 —二百五十年忌によせて—	昭26・1	朝日新聞社		
689	高木市之助氏の「湖畔」を読んで	昭26・2	国語と国文学		
690	勉学について	昭26・2	いづみ		
691	日本文学研究の方法について	昭26・4	国語と国文学		
692	ゆたかな人間性を	昭26・4	日本女子大学新聞		
693	万葉集抄 —15—	昭26・6	解釈と鑑賞		
694	公任の和歌選書 (古典文庫公任歌論集)	昭26・7		H87	
695	契沖の人と学問	昭26・8	語文 (阪大)		
696	契沖の生涯と文芸復興	昭26・8	日本及日本人		
697	本居宣長の人間と学問	昭26・10	芸林		
698	講演「万葉研究史上の一・二の問題点」	昭26・10			
699	学術資料の保存について	昭26・11	歴史評論		
700	風雅集の考察	昭26・11	樟蔭文学		
701	万葉集抄 —16—	昭26・11	解釈と鑑賞		
702	芳賀矢一先生	昭26・12	解釈と鑑賞		
703	本居宣長の人間と学問	昭26	芸林		
704	万葉集伝説歌考 (万葉集新説)	昭26	美夫君志会		
705	古典の伝統 (近代日本文学講座 3)	昭26	河出書房		
706	短歌の起原 (近代短歌講座 1)	昭26	新興出版社		
707	風土的文学 (日本文学講座 1)	昭26	河出書房		
708	日本文学と人間形成 (日本文学の全貌 1)	昭26	愛知書院		
709	人間形成の文学 —源氏物語を中心として—	昭26	桜楓新報		
710	短歌作家の性格	昭27・1	短歌研究		
711	「日本古代文学史」を読む	昭27・1	文学		
712	歌学密受抄は茂睡の書か	昭27・1	白珠	H87 △	
713	講義と同様に重要 —卒論で研究方法を学べ—	昭27・1	日本女子大新聞	H157	
714	万葉集抄 —17—	昭27・2	解釈と鑑賞		
715	万葉集抄 —18—	昭27・3	解釈と鑑賞		
716	講演「万葉人の美意識」	昭27・4			
717	文学の反響—古典の生かされ方について—	昭27・4	国語と国文学		
718	万葉研究史上の一・二の問題点 —古典を中心として—	昭27・6	金田—京助博士古稀記念論文集		B4-4
719	万葉集抄 —19—	昭27・6	解釈と鑑賞		
720	万葉研究の課題 —最近の研究に関連して—	昭27・7	文学		
721	中世文学の特質	昭27・8	解釈と鑑賞		
722	万葉集抄 —20—	昭27・9	解釈と鑑賞		
723	万葉集抄 —21—	昭27・10	解釈と鑑賞		
724	故垣内松三氏追悼 —垣内先生のことども—	昭27・11	国語と国文学		
725	万葉集抄 —22—	昭27・11	解釈と鑑賞		
726	定家の歌論について	昭27・12	日本文学		
727	国文学研究法と垣内松三先生	昭27・12	実践国語		
728	万葉集抄 —23—	昭27・12	解釈と鑑賞		
729	はじめに —日本女子大國語国文学会誌「会誌」創刊号	昭27・12	会誌		
730	万葉集の浪漫美 (万葉集講座 2)	昭27	創元社		
731	万葉集の作家総説 (万葉集講座 4)	昭27	創元社		
732	古典籍の覆刻について	昭28・1	国語と国文学		
733	頼阿 —中世和歌史の一節—	昭28・1	心の花		
734	日本文学研究の課題と方法	昭28・2	解釈と鑑賞		
735	為世 —中世和歌史の一断面—	昭28・3	東洋大学紀要		
736	万葉集の歌躰と風格 (万葉集大成 1)	昭28・3	平凡社		
737	万葉集抄 —24—	昭28・3	解釈と鑑賞		
738	文学評論史の研究とその課題	昭28・4	国語と国文学		
739	万葉集抄 —25—	昭28・4	解釈と鑑賞		
740	日本文学史に於ける「古代」の概念	昭28・5	解釈と鑑賞		
741	万葉集抄 —26—	昭28・6	解釈と鑑賞		
742	日本の風土	昭28・7	日本短歌		
743	万葉集抄 —27—	昭28・8	解釈と鑑賞		
744	少年文学の性格	昭28・10	国語と国文学		
745	講演「記紀歌謡と初期万葉」	昭28・10			

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
746	万葉集抄 一28一	昭28・10	解釈と鑑賞		
747	万葉集抄 一29一	昭28・11	解釈と鑑賞		
748	外国へいった日本文学	昭28・11	英語青年		
749	万葉集抄 一30一	昭28・12	解釈と鑑賞		
750	契沖と万葉代匠記 (万葉集大成 2)	昭28	平凡社		
751	佐佐木信綱と万葉研究 (万葉集大成 2)	昭28	平凡社		
752	源氏物語批評の歴史 (源氏物語講座 3)	昭28	創元社		
753	欧米諸国と日本文学 (近代日本文学講座 2)	昭28	河出書房		
754	柿本人麿の作品 (万葉集大成 9)	昭28	平凡社		
755	藤村先生を偲んで	昭29・2	国語と国文学		
756	万葉集抄 一31一	昭29・2	解釈と鑑賞		
757	万葉集抄 一32一	昭29・3	解釈と鑑賞		
758	和歌とは何か	昭29・4	解釈と鑑賞		
759	万葉集抄 一33一	昭29・5	解釈と鑑賞		
760	万葉巻五と山上憶良	昭29・7	国語と国文学		
761	抒情詩の母胎	昭29・7	短歌研究		
762	万葉集抄 一34一	昭29・8	解釈と鑑賞		
763	「俳文芸の論」について	昭29・9	連歌俳諧研究		
764	万葉集抄 一35一	昭29・10	解釈と鑑賞		
765	古代と中世との境	昭29・10	国語と国文学		
766	万葉集抄 一36一	昭29・11	解釈と鑑賞		
767	万葉集と文学散歩	昭29・12	読書春秋		
768	万葉集抄 一37一	昭29・12	解釈と鑑賞		
769	平家物語の日本文学史上の定位 (平家物語講座 1)	昭29	創元社		
770	谷崎潤一郎の文学と古典との関係 (谷崎潤一郎の文学)	昭29	塙書房		
771	人間の生き方― 憶良と赤人 (人生読本1 日本放送協会編)	昭29	春陽堂書店		
772	天平時代の彫刻と万葉集との関係 (天平彫刻)	昭29	生活百科刊行会		
773	国語教育における古典	昭29	実践家のための教育科学		
774	万葉集抄 一38一	昭30・1	解釈と鑑賞		
775	北海道の旅から(短歌)	昭30・1	いづみ		
776	万葉集抄 一39一	昭30・2	解釈と鑑賞		
777	文学と言語	昭30・3	言語生活		
778	聖武天皇と万葉集	昭30・4	南都仏教		
779	学究としての太田水穂	昭30・5	短歌		
780	講演「和歌史上の一二の問題」	昭30・5			
781	国文学界回顧	昭30・6	解釈		
782	東歌について	昭30・6	短歌研究		
783	文学における平安朝	昭30・7	解釈と鑑賞		
784	上代文学のとりあげ方	昭30・9	解釈と鑑賞		
785	万葉集抄 一40一	昭30・10	解釈と鑑賞		
786	空穂万葉と空穂源氏	昭30・12	短歌		
787	日本文学評論史 古代中世近世 (日本文学講座 7)	昭30	河出書房		
788	万葉研究の思出	昭31・1	日本文学		
789	日本文学論における心の詞	昭31・1	白百合短期大学研究紀要	H87 △	
790	万葉集抄 一41一	昭31・1	解釈と鑑賞		
791	万葉集抄 一42一	昭31・2	解釈と鑑賞		
792	序文 (上村悦子「万葉名歌―解釈と鑑賞」)	昭31・3	河出書房		
793	文献学と書誌学と	昭31・4	解釈と鑑賞		
794	講演「万葉批評史の一問題」	昭31・4			
795	後鳥羽院御口伝の考察	昭31・6	国学院雑誌	H87 △	
796	中世に於ける文学美の類型	昭31・6	日本学士院紀要		
797	佐佐木博士と万葉集	昭31・8	心の花		
798	定家歌論攷 一毎月抄を中心として一	昭31・9	文学・語学	H87 △	
799	万葉集の時代と歌風の展開	昭31・9	国文学		
800	山田孝雄著『万葉集と日本文芸』を読む	昭31・9	文学		
801	「心の花」の国文学界への寄与	昭32・2	心の花		
802	徒然草を構成する時代の思想	昭32・2	国文学		
803	池田博士と文献学	昭32・2	国語と国文学		
804	俊成歌論と広田社歌合	昭32・3	国語と国文学	H87 △	
805	論文を執筆する意義	昭32・5	解釈と鑑賞		
806	西鶴文学の位置	昭32・6	国文学		
807	「万葉人の文芸観 一題詞左註を中心として一」	昭32・6	国学院雑誌		
808	講演「万葉集の文芸性」	昭32・6			
809	万葉集評釈(1)～(172)	昭32・7～51・1	国文学		
810	平家物語の世界	昭32・9	解釈と鑑賞		

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
811	講演「題詞左註より見た万葉歌人」	昭32・10			
812	桂離宮と日本文学 (随筆)	昭32・10	泉	H157	
813	日本語の味わい ―現代日本語のもつ諸問題―	昭32・12	泉	H157	
814	万葉集評釈(7)	昭32・12	国文学		
815	万葉等の思想性 ―感性・述志・述懐―	昭33・1	国文学		
816	万葉集と歌経標式との関係	昭33・1	明日香	H87 △	
817	歌舞伎雑感 (随筆)	昭33・1	桜楓新報		
818	万葉集批評史の一問題 上・下	昭33・1,4	明日香路		
819	文学部のあり方について ―女子大学はいかにあるべきか―	昭33・2	泉		
820	中世歌論 (「岩波講座日本文学史」所収)	昭33・4	岩波書店	(抜刷あり)	
821	無名草子作者考 ―俊成卿女をめぐる―	昭33・4	史学・文学	H87	
822	研究の対象と方法―形態・様式	昭33・5	解釈と鑑賞		
823	源氏物語評論の歴史と現段階	昭33・5	国文学	H10 △	
824	講演「万葉集の美と人間性」	昭33・7			
825	講演「万葉集の文芸的性格と雅澄翁の万葉観」	昭33・10			
826	正徹歌論考―その文学論と定家の歌論との関係―	昭33・11	慶応義塾創立百年記念論文集文学	H87 △	
827	父親の座から「父親(私)の記」	昭33・12	泉		
828	歌経標式に見られる万葉集	昭34・9	国語国文研究	H87 △	
829	講演「柿本人麿論」	昭34・10			
830	中務内侍日記と京極為兼	昭34・10	文芸と思想		
831	竹園抄攷	昭34・11	日本学士院紀要	H87	
832	柿本人麿と万葉集	昭34・12	美夫君志	H93	
833	詠歌一躰と三五記との関係	昭35・1	国学院雑誌	H87 △	
834	万葉と寛平以往 ―文学批評史における批評基準の問題―	昭35・1	国文学		
835	御進講「藤原俊成と中世歌論」	昭35・1			
836	鴨長明歌論考 ―俊成の歌論との関係を中心として―(「中世文学の世界」所収)	昭35・3		H87 △	
837	定家歌論書考 (一)(二)	昭35・3	日本学士院紀要	H6	
838	若浜汐子著「万葉植物概説」の業績	昭35・5	短歌研究		
839	古代文芸思潮の流れ	昭35・5	国文学		
840	女流の日本文学研究	昭35・5	日本女子大学新聞	H157	
841	対象への角度は新しい方法を生む ―作品・作家・形態・様式・思潮―	昭35・6	解釈と鑑賞		
842	宇田久「芭蕉語彙の研究」	昭35・7	芸文研究		
843	模倣歌について	昭35・10	短歌		
844	六朝詩学と古代歌論 ―日本文学と外国文学の交流―	昭35・11	実践文学	H87 △	
845	講演「中世文学における古代的基準」	昭35・11			
846	「詠不尽山歌」と「恋古日歌」の作者 ―各一首の意味に関連して―	昭35・11	文学会会報	H93	
847	中世文学における古代的基準 ―詩歌を中心として―	昭36・1	国語と国文学	H87 △	
848	万葉集注釈巻六を読んで	昭36・1	万葉	H93	
849	六朝詩学と古代歌論 (2)	昭36・2	実践文学		
850	平安日記文学	昭36・2	解釈と鑑賞		
851	定家歌論書考(一)	昭36・3	日本学士院紀要		
852	日本に於ける文体の意識の変遷	昭36・4	日本文学		
853	万葉時代の人生観	昭36・5	理想	H93	
854	風巻景次郎氏著「日本文学史の研究(上)」	昭36・5	国語と国文学		
855	佐佐木信綱の短歌 ―近代短歌における位置―	昭36・6	短歌研究		
856	私の家の庭	昭36・6	女子大通信	H157	
857	万葉研究史通観	昭36・9	国語国文学研究史大成	H93	
858	講演「和歌史における三歌人」	昭36・10			
859	大伴家持	昭36・10	日本歌人講座	H93	
860	大田水穂の歌論	昭36・10	信濃教育	H87 △	
861	藤原俊成の文学論	昭36・11	王朝文学	H87 △	
862	目白の思い出	昭36・12	目白文学	H157	
863	家持と諸兄	昭37・1	明日香	H93	
864	学問と人生	昭37・3	女子大通信		
865	女性と学問	昭37・3	国文目白	H157	
866	書評「青木生子著『日本古代文芸における恋愛』」	昭37・3	国文目白		
867	近代文学「序」(慶応大文学論叢 第5輯)	昭37・4			B1-5
868	風土記雑考 ―日本武尊の場合―	昭37・5	上代文学	H93	
869	万葉の都会歌と地方歌の文学差	昭37・5	国文学		
870	講演「万葉集と連作」	昭37・5			
871	日本文学論争史	昭37・6	解釈と鑑賞	H87 △	
872	和歌史における三歌人	昭37・6	国文学攷		
873	古事記の文学的性格	昭37・10	国学院雑誌	H93	
874	世阿弥の芸術論 ―幽玄と妙花風―	昭38・1	国文学	H3	
875	連作歌人としての大伴旅人	昭38・1	明日香	H93	

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
876	契沖に関する考察	昭38・1	芸文研究		
877	「心の花」の歌風について	昭38・3	短歌研究		
878	「日本古典文学新論」を読んで	昭38・4	日本文学		
879	序文 (上村悦子「蜻蛉日記 校本・書入・諸本の系統」)	昭38・4	古典文庫		
880	為秀筆「詠歌の大概」ならびに解説 (資料紹介翻刻)	昭38・5	中世文学		
881	私の読書法 一性質・態度・構成を理解して一	昭38・5	児童心理		
882	類聚歌林と巻十一・十二	昭38・7	万葉集注釈月報	H93	
883	万葉歌風と玉葉歌風	昭38・8	美夫君志		
884	講演「日本文学の研究と古典講読史」	昭38・9			
885	海上胤平 (明治の歌人)	昭38・11	明治神宮社務所		
886	日本文学研究と古典講読史	昭38・11	鶴見女子大学紀要		
887	篤胤に関する考察	昭38・11	国学院雑誌		
888	歌論史の問題 一定家歌論を中心として一	昭39・1	日本文学		
889	佐佐木博士の人と学問	昭39・2	国語と国文学		
890	季の将来性について(座談会)	昭39・2	俳句研究		
891	万葉集における生活感情	昭39・3	国文学	H93	
892	序文 (国田百合子「女房詞の研究」)	昭39・3	風間書房		
893	岩津資雄著「歌合せの歌論史研究」	昭39・4	国文学		
894	佐佐木博士の歌学史・和歌史	昭39・6	上代文学		
895	和歌・歌謡 (古典文学研究の方法と技術)	昭39・6	解釈と鑑賞		
896	西下経一博士の学問	昭39・7	言語と文芸		
897	万葉集の比較文学的研究	昭39・7	国文学		
898	文学研究の三重構造	昭39・9	国文学		
899	日本文学研究と古典講読の方法	昭39・9	文学・語学		
900	良寛と古典	昭39・11	むらさき		
901	中世歌論の性格	昭39・12	鶴見女子大学紀要		
902	日本近代文学館のこと	昭39・12	国文学		
903	平群氏女郎について	昭40・1	明日香		
904	「もののあはれ」の思想的根拠	昭40・1	国文学		
905	万葉人の恋愛生活	昭40・2	学苑	H93	
906	伊原昭著「万葉の色相」を読む	昭40・3	語文(日大)		
907	定家歌論書考 (二)	昭40・3	日本学士院紀要	H6	
908	歌合の批評基準について	昭40・3	日本古典文学大系月報		
909	平安文学の特性 (「平安朝文学史」所収)	昭40・4	明治書院		
910	上代文学(戦後二十年の研究史)	昭40・4	国語と国文学	H93	
911	通観(平安朝和歌史) (「平安朝文学史」所収)	昭40・4	明治書院		
912	小沢正夫著「古代歌学の形成」	昭40・5	国語と国文学		
913	仮名文より和漢混淆文へ	昭40・6	文体論研究		
914	中世文学美の類型と性格 (「中世文学研究入門」所収)	昭40・6	至文堂		
915	日本文学研究と古典講読の方法	昭40・6	季刊文学・語学		
916	講演「人麻呂の人間像」	昭40・7			
917	私家集について	昭40・10	国文学		
918	講演「鴨長明小見」	昭40・10			
919	日記文学の本質	昭40・12	国文学	H2	
920	斎藤彦磨万葉集抄 巻七 (編・解説)	昭40・12	鶴見女子大学紀要		
921	岸本芳雄編「本居宣長・平田篤胤集」	昭41・1	国学院雑誌		
922	平安時代の書跡 一文化財入門講座一	昭41・1	月刊文化財		
923	日本文学研究について 一文献学と文芸学と文化学と一	昭41・3	国学院雑誌		
924	犬養孝著「万葉の旅」・若浜汐子著「万葉植物原色図譜」	昭41・4	国語と国文学		
925	鴨長明小見	昭41・5	中世文学		
926	祝辞 (江藤俊哉バイオリンリサイタルのプログラム)	昭41・5	日本女子大		
927	講演「世界の偉人紫式部」	昭41・6			B4-8
928	評論の本質 一文学評価を中心として一	昭41・7	国文学		
929	日本文学研究法	昭41・8	解釈と鑑賞		
930	万葉集評釈 90	昭41・8	国文学		
931	講演「歌論史における一二の問題」	昭41・10			
932	万葉集評釈 92		国文学		
933	令制度と万葉集	昭41・11	国文学	H93	
934	「世界の偉人」紫式部	昭41・11	むらさき		
935	平安朝和歌の展開と女流	昭42・1	国文学		
936	「本居宣長の玉勝間」(二十数回)	昭42・1～	NHK古典講座		
937	真間手児奈と浮舟	昭42・1	明日香		
938	斎藤彦磨万葉集抄 巻八 (編・解説)	昭42・2	鶴見女子大学紀要		B4-6
939	女流文学史について	昭42・3	国文鶴見		

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
940	古典を通して学ぶべきもの —「源氏物語にあらわれた学問と人生に対する考え方」—	昭42・3	女子大通信	H157	
941	近江と万葉集 —磯前、勝野など—	昭42・5	明日香		
942	講演「万葉様式の二つの面」	昭42・5			
943	文学史研究の動向	昭42・5	国文学		
944	講演「万葉研究史における三人」	昭42・6		H8	
945	近世より近代への学問の展開	昭42・6	文学・語学		
946	歌論史に於ける表現論の類型 —時のさま・余情・調—	昭42・6	日本女子大学国語国文学論究		
947	文学のひろば	昭42・6	文学		
948	空穂全集書評	昭42・6	短歌		
949	概説(研究史)(「万葉集必携」所収)	昭42・8	学燈社		
950	太田善麿著「古代日本文学思潮論」	昭42・8	国語と国文学		
951	日本文学の環境 —歴史的風土—	昭42・10	国文学		
952	人麻呂の旅の歌	昭42・11	むらさき		
953	宣長の人間観と美意識との関聯 —玉かつまを中心として—	昭42・12	鶴見女子大学紀要	H4	
954	万葉研究史における三人	昭42・12	上代文学		
955	鳥翔成について	昭43・1	明日香	H93	
956	万葉の歌人たち	昭43・1	国文学		
957	万葉集の抒情 —愛と死と自然—	昭43・1	短歌研究	H93	
958	時枝誠記博士を悼む	昭43・2	国語と国文学		
959	文学史に於ける勅撰集の意義 —勅選集とは何か—	昭43・3	解釈と鑑賞	H2	
960	松浦(嘉一)博士を偲ぶ	昭43・3	鶴見女子大学紀要		
961	武島羽衣氏の業績	昭43・3	国文目白	H157	
962	遊行寺と由阿	昭43・4	仏教文学研究月報	H93	
963	荷田在満と藤原良経—文学論的考察— (「日本文芸の世界」所収)	昭43・5	桜楓社		
964	宣長の学問について	昭43・5	本居宣長全集月報		
965	近世歌論の性格 —その合理性を主として—	昭43・5	文学研究		
966	万葉集評釈 (101~105)	昭43・5~12	国文学		
967	雑記帳一 —文学評論史のこと—	昭43・6	著作集3月報	H3	
968	記紀の歌謡と民衆	昭43・6	解釈と鑑賞		
969	源氏物語と文化財	昭43・6	月刊文化財		
970	古典文学に見る愛の諸相	昭43・8	国文学	H93	
971	雑記帳三 —国文学概論など—	昭43・8	著作集1月報	H1	
972	麻生磯次・松田武夫・市古貞次著「日本文学概論」	昭43・8	国文学		
973	雑記帳四 —風土のこと—	昭43・9	著作集2月報	H2	
974	本居宣長の物の考え方について	昭43・9	月刊文化財		
975	雑記帳五 —歌論史など—	昭43・10	著作集5月報	H5	
976	本居宣長の上代文学観 —玉勝間を中心として—	昭43・11	国学院雑誌	H12	
977	明治の国文学者 —小中村清矩と木村正辞	昭43・11	日本学士院紀要	H10	
978	源氏物語二題	昭43・11	むらさき		
979	青木生子著「茅野雅子 —その生涯と歌・付金沙集—」(書評)	昭43・11	国文学		
980	本居宣長研究二 —生涯と学問、絵画論と歌論—	昭43・12	鶴見女子大学紀要	H12	
981	契沖と為章	昭44・1	国文学		
982	車持千年について	昭44・1	明日香	H93	
983	万葉集の二様式 —詩経的と文選的と—	昭44・1	短歌研究	H93	
984	雑記帳七 —万葉集と私—	昭44・1	著作集7月報	H7	
985	万葉歌風について	昭44・2	解釈と鑑賞		
986	万葉集評釈 (106~113)	昭44・2~12	国文学		
987	古代前期文学と女流 (「女流文学史古代中世編」所収)	昭44・3	同文書院		
988	中世文学と女流 (「女流文学史古代中世編」所収)	昭44・3	同文書院		
989	月雪花と花鳥風月	昭44・3	国文鶴見		
990	宣長の中世文学史観 —新古今集、東鑑、徒然草、その他について—	昭44・3	軍記物とその周辺	H12	
991	「終ひ薔薇」を読む	昭44・3	桜楓新報		
992	万葉の草と鳥の歌 (「新宮殿千草千鳥の間」所収)	昭44・4		H93	
993	万葉研究の方法について (巻頭言)	昭44・4	上代文学	H93	
994	雑記帳八 —万葉研究の系譜など—	昭44・4	著作集8月報	H8	
995	女流日記の成立と文学意識	昭44・5	国文学		
996	文学評論史と文学史との間 (講座 日本文学第12)	昭44・6	三省堂		
997	高木市之助著「雑草万葉」を読んで	昭44・6	国語と国文学		
998	玉井幸助先生追悼	昭44・6	和歌文学研究		
999	中西進著「滅びゆく万葉大和路」	昭44・7	国文学		
1000	雑記帳九 —文学評論書の文体—	昭44・7	著作集9月報	H9	
1001	雑記帳十 —表記のことなど—	昭44・7	著作集10月報	H10	
1002	雑記帳十一 —上代・古代・上世など—	昭44・8	著作集11月報	H11	
1003	万葉集と類聚歌林	昭44・9	武蔵野文学	H93	

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
1005	万葉的なものの二の様式	昭44・10	上代文学	H93	
1006	雑記帳十二 —契沖伝のことなど—	昭44・10	著作集12月報	H12	
1007	大伴家持の生活と和歌 —花鳥によせて—	昭44・11	国学院雑誌	H93	
1008	佐佐木信綱 (「日本歌人講座 八」所収)	昭44・11			
1009	雑記帳十三 —終りに当って—	昭44・12	著作集13月報	H13	
1010	記紀歌謡雑考	昭44・12	関東短大紀要	H93	
1011	中世歌論書考 —順徳院御百首考—	昭44・12	鶴見女子大学紀要		
1012	笠女郎について	昭45・1	明日香	H93	
1013	万葉集とその原資料 —類聚歌林、人麿之歌集その他—	昭45・1	短歌研究	H93	
1014	歌人総覧・総索引 (「日本歌人講座 別巻」実方清氏と共篇)	昭45・2			
1015	万葉集評釈 (114~122)	昭45・2~11	国文学		
1016	日本文学に於ける梅と桜	昭45・3	国文鶴見		
1017	説話の文学的形成 —三輪山説話を中心として—	昭45・5	説話文学研究	H93	
1018	良寛 (「中世・近世の歌人」和歌文学講座7 所収)	昭45・7	桜楓社		
1019	女流短歌の類型	昭45・9	女人短歌		
1020	東郷豊治著「新修良寛」	昭45・10	解釈と鑑賞		
1021	講演「日本文学研究における三方面」	昭45・10			
1022	講演「古典の美と資料」	昭45・11			
1023	中世歌論書考 二	昭45・12	鶴見女子大学紀要		
1024	近代における和歌研究 (「和歌研究史」和歌文学講座 所収)	昭45・12			
1025	人麿と家持 —石見・因幡を訪ねて—	昭46・1	短歌研究	H93	
1026	枕詞雑考	昭46・1	明日香	H93	
1027	定家歌論の構造	昭46・2	日本女子大学国語国文学論究	(抜刷あり)	
1028	万葉の永遠の課題 〈対談〉(吉田精一氏と)	昭46・2	国文学		
1029	万葉集評釈 (123~131)	昭46・2~11	国文学		
1030	近代日本の歌人たち〈対談〉(吉田精一氏と)	昭46・3	国文学		
1031	文学史研究に於ける縦と横	昭46・3	国文学		
1032	重友毅『芭蕉の研究』	昭46・4	国文学		
1033	古事記と私	昭46・5	古事記年報		
1034	日本文学美と川端康成	昭46・7	東京女子大学論集		
1035	古典文学の複製復刻 (復刻日本古典文学館ニュース)	昭46・8	復刻日本古典文学館		
1036	伊勢物語と堤中納言物語	昭46・9	むらさき		
1037	短歌結社の沿革	昭46・9	短歌研究		
1038	藍紙本万葉集の本文と訓 複製解説	昭46・10	復刻日本古典文学館	H93	
1039	大福光寺蔵本方丈記解題	昭46・10	復刻日本古典文学館		
1040	古典文学入門 (「日本の古典」別冊)共篇	昭46・11	河出書房新社		
1041	日本文学と風土 (「古典文学入門」所収)	昭46・11	河出書房新社		
1042	歌人の系譜 —人間と美による—	昭46・12	国文学		
1043	中世歌論書考 三 —歌仙落書の一本—	昭46・12	鶴見女子大学紀要	(抜刷あり)	
1044	文芸・ことばと本質	昭46・12	言語生活		
1045	平群氏女郎について	昭47・1	明日香	H93	
1046	万葉の春と秋の歌	昭47・1	短歌研究	H93	
1047	新年の歌	昭47・1	短歌研究		
1048	私の卒業論文 —5—	昭47・1	国文学		
1049	歌論書の集書 (復刻日本古典文学館ニュース)	昭47・2	復刻日本古典文学館		
1050	万葉集評釈 (132~138)	昭47・2~11			
1051	学界寸評(1)	昭47・3	解釈と鑑賞		
1052	講座日本古典文学 —上代文学概観—	昭47・4	ほるぷじん	H93	
1053	桜 (「桜」を描いた日本の千年特集)	昭47・4	芸術新潮		
1054	万葉集評釈 (133)	昭47・4	国文学		
1055	学問の伝統を重んじて —日本古来の和魂漢才的な方法と態度で—	昭47・4	女子大通信		
1056	講演「契沖の生涯と万葉集」	昭47・5			
1057	契沖の人と学問 —書簡其他の新資料など—	昭47・6	日本学士院紀要	(抜刷あり)	
1058	講演「大伴家持について—大夫と風流士」	昭47・7			
1059	契沖と万葉代匠記の序	昭47・7	日本思想史大系月報		
1060	万葉の秋	昭47・9	レポート笠間	H93	
1061	保坂都教授 (「大中臣家の歌人群」出版記念)の祝宴	昭47・9	学苑		
1062	契沖の足跡と万葉集	昭47・10	上代文学		B4-5
1063	訪書雑談	昭47・10,11,12	日本古典文学学会会報		
1064	桜井満編「万葉集東歌古注釈集成」	昭47・10	国学院雑誌		
1065	「伝記・典籍研究」(橋本進吉博士著作集第12冊)解説	昭47・10	岩波書店		
1066	「新古今集」と近代短歌 —白秋の幽玄歌風について—	昭47・11	形成		
1067	幽玄と「さび」との関係 —日本美の系譜より見た—	昭47・12	東方学会・東方学論集	(抜刷あり)	
1068	契沖全集内容見本「監修者のことば」	昭47・12	岩波書店	(見本あり)	
1069	序説 契沖の生涯と万葉代匠記 (契沖全集1)	昭48・1	岩波書店	H14	

	論文名	刊行年月	発表誌等	請求記号 (△は一致すると 推定されるもの)	原稿所蔵 記号
1071	古今余材抄 序説 古今余材抄の特質と位置 契沖全集8解説	昭48・3	岩波書店	H21	
1072	万葉集評釈 (139~147)	昭48・3~12	国文学		
1073	正徹と心敬 (「和歌文学の世界 第1集」所収)	昭48・7	笠間書院		B4-3
1074	類聚歌林と巻十一・巻十二 (万葉集注釈月報)	昭48・7			
1075	万葉集の古筆切	昭48・8	日本古典文学会会報		
1076	万葉集各巻の組織と性質(4) (「万葉集講座第一巻」所収)	昭48・11	有精堂	K128	
1077	万葉集の名義 (「万葉集講座」第一巻所収)	昭48・11	有精堂	K128	
1078	契沖の随筆 日本随筆大系第二期第二巻付録	昭48・12			B1-7
1079	万葉集評釈 (147)	昭48・12	国文学		
1080	短歌の場	昭49・1	短歌研究		
1081	契沖万葉代匠記(回想この一冊)	昭49・1	国文学		
1082	万葉集の地名	昭49・1	明日香		
1083	契沖の名所研究の意義 (契沖全集12)	昭49・2	岩波書店	H24	
1084	武田祐吉の歌学 (座談会 久松・山岸徳平 三谷栄一)	昭49・2	短歌		
1085	万葉集評釈 (148~158)	昭49・2~12	国文学		
1086	近代文学における説話の意義 (「日本の説話と近代」所収)	昭49・3	東京美術		B4-7
1087	契沖の注釈の範囲と方法 (契沖全集 9)	昭49・4	岩波書店	H21	
1088	随想短歌史一 一短歌と生命一	昭49・5	短歌		
1089	人見(円吉)さんを偲ぶ	昭49・5	学苑		
1090	随想短歌史二 一短歌形態の多様性一	昭49・6	短歌		
1091	随想短歌史三 一歌謡と短歌一	昭49・7	短歌		
1092	万葉代匠記の性格と位置 (契沖全集 7)	昭49・8	岩波書店	H19	
1093	随想短歌史四 一短歌と反歌一	昭49・8	短歌		
1094	随想短歌史五 一万葉集の題詞・左註一	昭49・9	短歌		
1095	随想短歌史六 一山柿と万葉の代表歌人一	昭49・10	短歌		
1096	随想短歌史七 一万葉の作者未詳の歌一	昭49・11	短歌		
1097	随想短歌史八 一万葉と古今との間一	昭49・12	短歌		
1098	高木市之助著「貧窮問答歌の論」について	昭49・12	国語と国文学		
1099	万葉集巻六について	昭50・1	明日香		
1100	明恵の歌一首	昭50・1	短歌研究		
1101	随想短歌史九 一歌合一	昭50・1	短歌		
1102	万葉集評釈 (159~170)	昭50・1~12	国文学		
1103	随想短歌史十 一古今集かな序一	昭50・2	短歌		
1104	随想短歌史十一 一六歌仙一	昭50・3	短歌		
1105	随想短歌史十二 一屏風歌一	昭50・4	短歌		
1106	随想短歌史十三 一私家集と友則敏行一	昭50・5	短歌		
1107	随想短歌史十四 一梨壺の五人一	昭50・6	短歌		
1108	随想短歌史十五 一三代集の意義一	昭50・7	短歌		
1109	高木市之助氏を偲ぶ	昭50・7	上代文学		
1110	随想短歌史十六 一女流歌人一	昭50・8	短歌		
1111	随想短歌史十七 一紫式部と物語一	昭50・9	短歌		
1112	随想短歌史十八 一源経信の叙景歌一	昭50・10	短歌		
1113	随想短歌史十九 一散木奇歌集一	昭50・11	短歌		
1114	講演「国文学の資料的研究」	昭50・11			
1115	続後歌林良材集・源氏交選和歌集 (契沖全集15)	昭50・12	岩波書店	H27	
1116	随筆短歌史二十 一西行・俊成は中古か中世か一	昭51・1	短歌		
1117	短歌と花鳥 (朝日新聞短歌・俳句欄に四回連載)	昭51・1	朝日新聞社		
1118	万葉集評釈 (171)	昭51・1	国文学		
1119	国文学界三十年(国語国文学研究の戦後三十年)(遺稿)	昭51・4	文学・語学		
1120	曙覧と言道(「和歌文学の世界第四集」所収)	昭51・5	笠間書院		
	〈久松潜一博士追悼特集〉 (含 久松潜一博士著述目録・年譜)	昭51・7	国語と国文学	H158	
	〈久松先生追悼文集〉	昭51・5	国文鶴見	H159	
	〈久松潜一先生追悼号〉	昭52・2	国文目白	H157	
	〈追慕・久松潜一先生〉	昭52・6	茅花	H160	

整 理 中 の 原 稿

	書 名		形態注記	原稿所蔵 記号
1 国文学概論に関する著作				
1	国文学概論 序説 国文学の意義と範囲 第一章 国文学の方法論			C1
2	国文学概論二 (構成メモを含む)			C1
3	国文学の方法論			C1
4	日本文学に於ける神、人、自然			C1
5	古典と現代		メモ	C1
6	古典と現代 一不易と流行を中心として一			C1
7	日本文学の表現 一日本文学の表現の類型一			C1
8	文献学			C1
9	国文学に関する二三の問題 一プロットおよび本文一			C1
10	国文学の課題について			C1
11	日本文学研究の方法について (附 下書き的な原稿も)			C1
12	文学の形成と作家論 文学の内容と精神 文学史の方法論(別稿「文学史の方法論」とは異なる)			C1
2 日本文学史に関する著作				
13	日本文学史の時代区分に就いて			C2-①
14	日本文学の学(プロット) 文芸学と文芸史学 文芸学の課題一形象・形成・精神			C2-①
15	国史と国文学史			C2-①
16	日本文学史 目次			C2-①
17	日本文学史論 序説 作家研究と表現論			C2-①
18	日本文学史 概観			C2-①
19	日本文学史 中古以降			C2-①
20	日本文学史 中世、近世			C2-①
21	国文学史通記		構想メモ	C2-①
22	文学史の動向			C2-①
23	英雄神話の発展			C2-①
24	古代日記文学の研究			C2-①
25	日記文学 (中古、中世)			C2-①
26	擬古物語、歴史物語、説話物語 その他 中世の自照文学(日記、随筆、評論)			C2-①
27	紫式部日記に就いて			C2-①
28	和泉式部日記に就いて			C2-①
29	中世文学の特質 宗教的傾向と伝統的傾向			C2-①
30	今昔物語の信仰説話と庶民説話			C2-①
31	伊勢物語と堤中納言物語			C2-①
32	曾我物語に就いて			C2-①
33	「伝記物語」(義経記、曾我物語)			C2-①
34	国文学の領域と基礎的研究			C2-①
35	明治文学史 第一期の文学 明治初期の和歌 明治初期の俳句			C2-②
36	文学史の区分と明治文学の概観			C2-②
37	明治文学史 (第一章後半～第二章前半部分と思われる)			C2-②
38	明治文学史 第二 (第二章浪漫主義前期の文学の後半部分と思われる)			C2-②
39	明治文学史 第二 第三章 浪漫主義後期の文学			C2-②
40	明治文学史 第三 続き			C2-②
41	紅葉と古典からの影響			C2-②
42	幸田露伴			C2-②
43	明治文学序説 (自然主義の作家)			C2-②
44	大正時代の文学			C2-②
45	文学史における和歌[1]			C2-②
46	文学史における和歌[2]			C2-②
47	鶴見大学図書館蔵写本類に関する久松先生の調査メモ		メモ	C2-②
48	文学史の問題メモ			C2-②
49	日本文学史 序			C2-②
3 日本文学研究史に関する著作				
50	日本学問の伝統と古典			C3
51	古事記研究史		メモ	C3
52	古事記研究史		研究史のメモ	C3
53	国学に関する編纂計画		プロット	C3
54	国学史と国文学			C3
55	源氏物語大成 序文			C3
56	契沖の随筆			C3
57	契沖の書簡について			C3
58	(契沖全集全十六巻) 監修者のことば		パンフレット	C3
59	国語国文学会編 [論文集]の序文			C3

	書名		形態注記	原稿所蔵記号
	4 日本文学評論史に関する著作			
60	日本文学評論史の研究		プロット	C4
61	古代に於ける文学評論の発生と完成		資料メモ	C4
62	小説批評史 序説 小説批評史の意義とその扱い方			C4
63	契沖伝		参考文献メモ	C4
64	加茂真淵の万葉考要項			C4
65	加茂真淵著 「歌意」と「文意」			C4
66	真淵と景樹			C4
67	荷田春満の古典研究			C4
68	正徹歌論攷			C4
69	小西甚一著 文鏡秘府論考について			C4
70	近世文学評論		プロット及び準備メモ	C4
71	禅竹の能楽論			C4
72	近代前期の文学評論		プロットと準備メモ	C4
73	近代の文学評論		講義メモ	C4
74	日本文学評論選		メモ	C4
	5 和歌史に関する著作			
75	和歌史雑考 和歌史叢攷 (目次)		プロット	C5-①
76	和歌史 序説 和歌史の意味とその区分			C5-①
77	和歌史叢考 目次			C5-①
78	古代和歌史 二 万葉集に現れた文学意識			C5-①
79	古代和歌史 三 展開時代の和歌			C5-①
80	農耕狩猟生活と日本詩歌			C5-①
81	穂積皇子、但馬皇女の歌一首について			C5-①
82	万葉歌人の名に就いて 二人の人麿と五人の蟲麿			C5-①
83	古今集の解釈			C5-①
84	古今集序の一節 古今集所収の業平の歌			C5-①
85	万葉 古今集の本文、注釈書等の目録 (メモ)		目録・メモ	C5-①
86	日本詩歌と季節感			C5-①
87	詩歌と四季または季節感について			C5-①
88	「古今 新古今集 緒言」			C5-①
89	新古今集と玉葉集一			C5-①
90	新古今集の秀歌を選ぶについて			C5-①
91	(古典文学大系の)新古今集編者の一人として			C5-①
92	和歌史における三人 人麻呂、定家、良寛			C5-①
93	赤染集 巻末の歌の詞書と歌			C5-①
94	栄花物語の和歌の諸問題			C5-①
95	後鳥羽院伏見院の御文学 宗良親王と耕雲 (歌論について)			C5-①
96	さまざまな美について		構想メモと断片的記述	C5-①
97	六義と六体(詩と和歌の)			C5-①
98	歌論と歌風			C5-①
99	毎月抄(定家) 一解釈と批評一			C5-②
100	百人一首に就いて		研究のためのメモ集	C5-②
101	中世和歌史 一和歌史研究書略解一			C5-②
102	中世和歌史 序説 および新古今集の歌人			C5-②
103	頓阿と二條家の歌論			C5-②
104	兼好、頓阿の歌論と耕雲口伝			C5-②
105	異本山家集 (附 西行論)			C5-②
106	千載集と西行			C5-②
107	短歌概説			C5-②
108	歌論、俳論選		メモ	C5-②
109	伝授論の変遷と文学に取扱はれたる伝授			C5-②
110	梵灯庵、高山宗砌 心敬 正徹			C5-②
111	良寛論			C5-②
112	曙覧、言道、良寛の歌について		メモ	C5-②
113	曙覧と幸文			C5-②
114	近世前期の和歌と俳諧			C5-②
115	近世和歌史 一近世末より近代へ一			C5-②
116	「あはれ」			C5-②
117	幽玄と「さび」との関係			C5-②
118	俳諧の風姿と風情 一有心連歌について一 (仮題)			C5-②
119	有心連歌			C5-②
120	歌合の方人と歌人			C5-②
121	有名歌人の代表作		メモ	C5-②

	書名	形態注記	原稿所蔵記号
122	歌合 備考	下調べメモ	C5-②
123	歌論に於ける写生		C5-②
124	隆達小歌集の伝本 (浅野健二氏著作の序文)		C5-②
125	江戸時代後期の和歌 俳句 (仮題)		C5-②
126	皇室と日本詩歌		C5-②
127	秋成の歌 (秋成の歌と良寛)		C5-②
128	池袋清風と大西祝の歌論	印刷物切取(赤黒で書き込みあり)	C5-②
129	名歌の解説、語釈、通釈、鑑賞		C5-②
130	海外に於ける短歌研究		C5-②
6 上代文学研究に関する著作			
131	「天御主神」		C6-①
132	日本紀私記	メモ	C6-①
133	古典の意義 (「記紀」一放送原稿一)		C6-①
134	古事記の生成		C6-①
135	古事記の歴史伝承		C6-①
136	古事記研究史に於ける賢瑜と宣長		C6-①
137	北畠親房と古事記		C6-①
138	賢瑜の古事記書写		C6-①
139	古事記 (写本関係メモ)	メモ	C6-①
140	無窮会藏風土記関係書目		C6-①
141	風土記の説話と地方生活 (付 万葉集の文学精神)		C6-①
142	大和時代文学概観		C6-①
143	文学の発生と神話 (付 上代の都)	メモ	C6-①
144	神功皇后の新羅御鎮撫について (仮題)		C6-①
145	大和文学と日本精神 (付 日本風土の特質 日本精神の特質)	メモ	C6-①
146	古典の精神要項 (目次)		C6-①
147	古典と日本精神 (付 万葉関係メモ)		C6-①
148	古事記・風土記関係原稿 (古事記の考察、風土記の考察)		C6-①
149	古典の成立と律令の制定		C6-①
150	古代文学に現れた伊勢大和	研究のためのメモ集	C6-①
151	古代説話文学	プロット	C6-①
152	古代詩歌に於ける神の概念		C6-①
153	万葉集の文化	レジュメ	C6-②
154	万葉集に就いて	研究メモ	C6-②
155	万葉集と叙景詩	メモ	C6-②
156	万葉集の枕詞		C6-②
157	「柿本人麿の歌」について	メモ集	C6-②
158	万葉集の古今相聞往来について	未完稿	C6-②
159	万葉集の研究の動向と文学地理学	研究メモ	C6-②
160	万葉集巻五と山上憶良		C6-②
161	万葉巻五と山上憶良	講演メモ	C6-②
162	憶良の帰化人説にちなみ		C6-②
163	眞淵の万葉研究と詠作との関係		C6-②
164	「万葉集訓点の史的研究」		C6-②
165	万葉集 卷十三 講読	講義用メモ	C6-②
166	万葉集 解 256番～455番		C6-②
167	「万葉集の忠君愛国のうた」 (仮題)		C6-②
168	万葉集の二三問題要旨	印刷物抜取	C6-②
169	万葉集の総合研究「歌格・修辞・文法」	印刷物抜取	C6-②
170	上代古典研究の伝統	印刷物抜取	C6-②
171	第一章 上世文学		C6-②
172	和歌史 (上代文学前期、後期)	印刷物抜取	C6-②
173	万葉集考説(封筒表書きによる)		C6-②
7 文学風土、思潮研究に関する著作			
174	日本文学の思潮 序説		C7
175	国文学と国民性	プロット	C7
176	序説 国文学と道徳との関係		C7
177	仏教文学とは何か		C7
178	万葉集に現れた日本精神		C7
179	万葉集に於ける民間信仰		C7
180	古代文学に現れた日本精神		C7
181	源氏物語と美と人間性		C7
182	源氏物語に見える日本的なるもの		C7
183	儒学について (仮題) 一勸善懲悪にからめて一		C7

	書名		形態注記	原稿所蔵記号
184	中世における美の類型 (仮題)			C7
185	日本美の系譜と幽玄・さび			C7
186	序説 日本的自覚と風土・歴史			C7
187	日本文学に於ける情と理 [付 我が風土・国民性と文学]		講演メモ	C7
188	日本の学問の特質と国文学			C7
189	古典学者の美意識 一契沖・眞淵・宣長を中心に一		後半はメモ的に	C7
190	近世文学の思潮		プロット	C7
191	女性作家と日本詩歌			C7
192	日本文学と世界文学 一古事記とホーマーの詩篇一			C7
193	歴史・風土・文学		構想メモ	C7
8 随想雑記				
194	新春爐辺随想			C8
195	新春の御進講当日について (仮題)			C8
196	契沖の梅の花 一新春随筆(短歌新聞)一		印刷物断片	C8
197	国語国文学 (付「稽古照今」)			C8
198	文化建設			C8
199	文学としての謡曲		印刷物抜取	C8
200	「臣民の道」に就いて			C8
201	中世に於ける皇室の御文字		プロットと下書き	C8
202	国体の本義 (未完)			C8
203	国文学一般 (年次報告書)			C8
204	堤中納言物語「はいずみ」の現代語訳			C8
205	昭和三十四年国文学界展望			C8
206	「妻の死をいたむ歌」 (仮題一未完)			C8
207	高知行			C8
208	外国文学と国文学			C8
9 編纂・校註				
209	事典の草稿 丈草他43名の俳人の紹介 (各人1~4枚)			C9
10 著作が翻訳されたもの				
11 国語学および教科書関係のもの				
210	国語教材の研究			C11
211	中等国文		(教科書編纂のための構想メモ)	C11
212	小学国語読本巻三に就いて (新編纂の教科書の特色について述べたもの)			C11
213	教科書目次 (1~5巻分)			C11
214	教科書資料 (古泉千樫の歌7首)			C11
215	昭和9年頃発行の国文教科書二種の概要比較表			C11
216	国語読本 巻一目次 (含 改正中学校令施行規則ニ依ル国語読本及ビ漢字読本検定標準)			C11
217	かな遣い問題解決の方向について			C11
218	国語の問題点について (振がな、漢字節減、かな遣い、標準語)			C11
219	国語審議会の運営その他について			C11
12 著者・著作紹介・序文等(他者の書)				
220	紀貫之 和泉式部 (事典等の原稿)			C12
221	懐風藻について			C12
222	契沖 (事典の原稿)			C12
223	詠歌大概 (取材メモ)			C12
224	平家物語 近松門左衛門 (事典等の原稿)			C12
225	飯野哲二「芭蕉事典」 (序文)			C12
226	世阿弥 (事典等の原稿)			C12
227	芳賀矢一			C12
228	現代文学論大系について			C12
13 位置づけ不明のもの・雑稿				
229	世界百科事典より (桜の種類のメモ)			C13
230	図書館雑感			C13
231	京阪に於ける古書			C13
232	古典 (事典等の原稿)			C13
233	信仰と生活			C13
234	自著を書き出したメモ			C13
235	慶応大学院 林鐘会名簿 (付 林鐘会案内ハガキ一枚)			C13
236	東大国文学科の歴史 (東大史誌の原稿)			C13